

Ⅱ 家庭生活等

1 家庭における役割

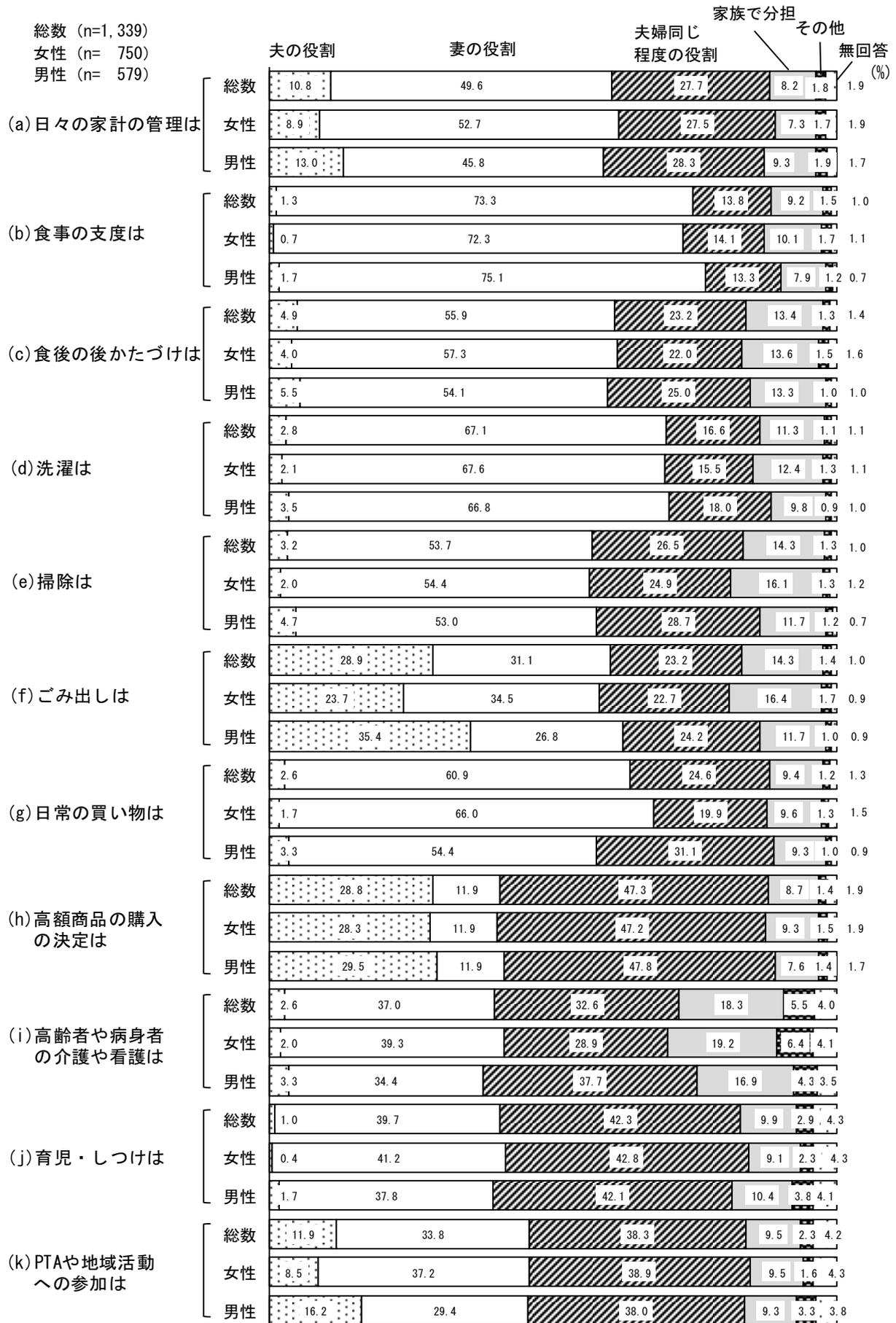
問2 次にあげる(a)～(k)の家庭の仕事は誰の役割だと思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。(○はそれぞれ1つ)

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについて、『妻の役割』と回答した割合が多いのは、“(b) 食事の支度は” (女性72.3%、男性75.1%)、次いで“(d)洗濯は” (女性67.6%、男性66.8%)、“(g) 日常の買い物は” (女性66.0%、男性54.4%) の順となった。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“(h) 高額商品の購入の決定は” (女性47.2%、男性47.8%)、“(j) 育児・しつけは” (女性42.8%、男性42.1%)、“(k) PTAや地域活動への参加は” (女性38.9%、男性38.0%) の順となっている。

※『夫の役割』は、調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。『妻の役割』は、調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。以降の頁も同様。

図2-1 家庭における役割 項目別一覧（性別）



家庭における役割

(a) 日々の家計の管理は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は18～29歳（5.7%）、30代（6.7%）、40代（5.4%）、60代（9.3%）と1割未満となった年代が多い。「夫婦同じ程度の役割」は40代（32.6%）で最も多くなった。

男性では、『夫の役割』は70歳以上（18.3%）で最も多い。「夫婦同じ程度の役割」は、18～29歳（38.8%）で最も多く、若い年代ほど割合が多くなっている。

【地域別】

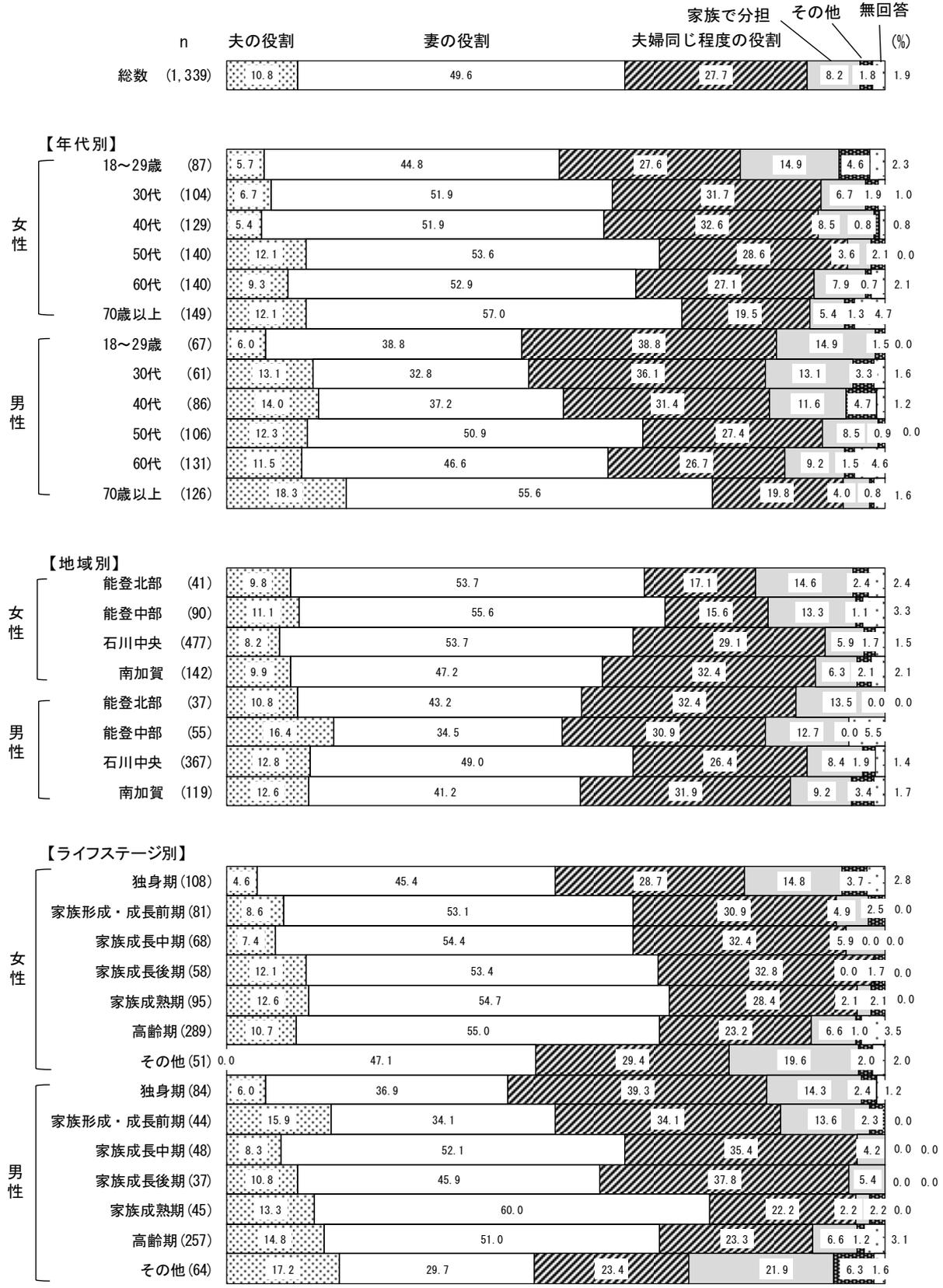
女性では、『夫の役割』や『妻の役割』は大差ないが、「夫婦同じ程度の役割」は能登北部（17.1%）、能登中部（15.6%）で2割未満と、石川中央（29.1%）、南加賀（32.4%）で3割前後となっている一方、「家族で分担」は、能登北部（14.6%）、能登中部（13.3%）と石川中央（5.9%）、南加賀（6.3%）より多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は、独身期（45.4%）とその他（47.1%）を除いて、5割台となっている。「夫婦同じ程度の役割」は高齢期（23.2%）を除いて、3割前後となっている。

男性では、独身期や家族形成・成長前期で、『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が同じか多くなっている。

図2-2 家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は
(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(b) 食事の支度は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上(84.6%)で最も多く、最も少ない18~29歳(42.5%)まで年代とともに、少なくなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は18~29歳(28.7%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は70歳以上(88.9%)、60代(84.7%)で多く8割を超えており、「夫婦同じ程度の役割」は30代(29.5%)で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀(66.9%)を除いて、7割を超えている。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀(19.0%)で最も多くなっている。

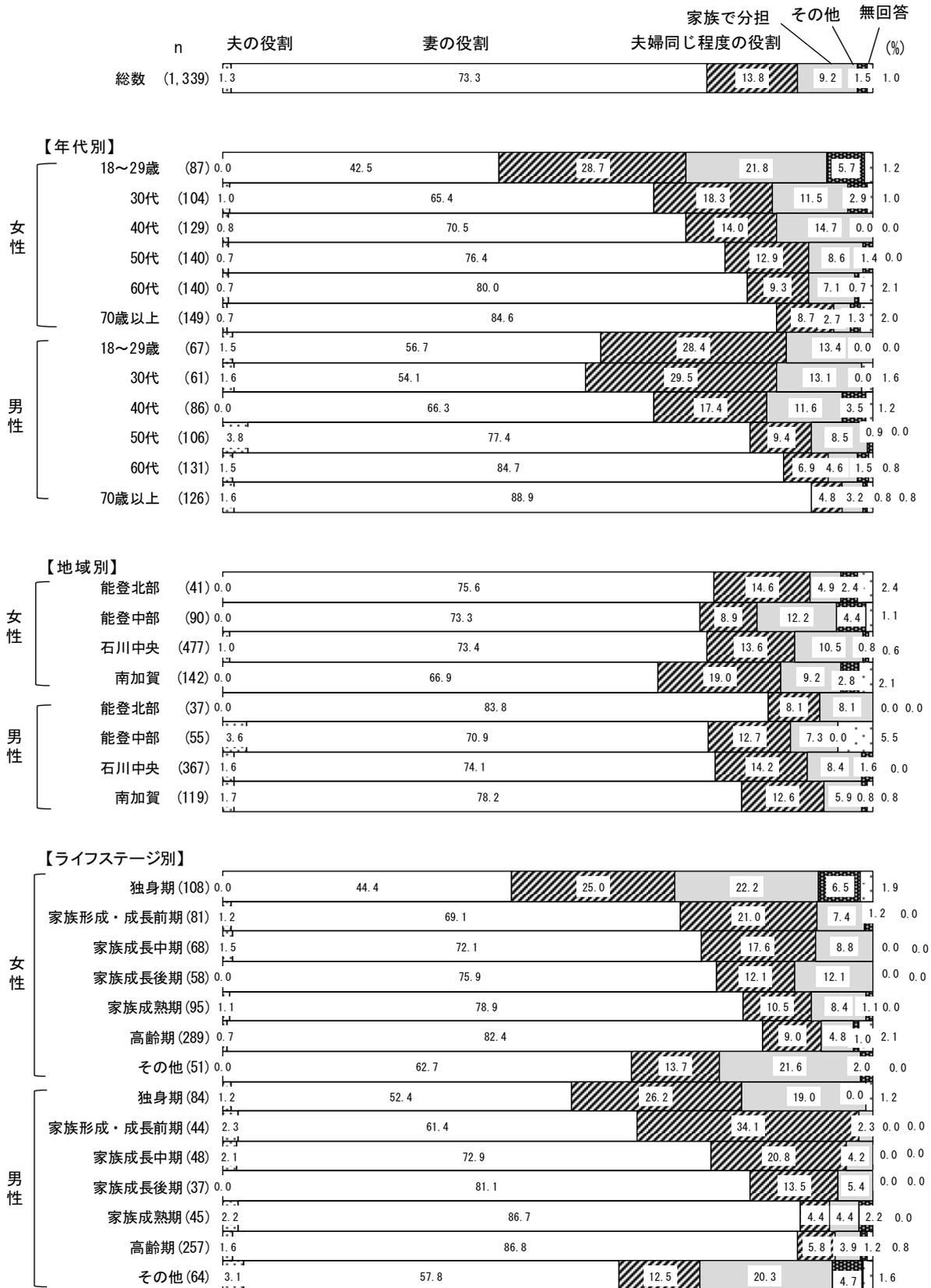
男性では、『妻の役割』は能登北部(83.8%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(14.2%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、独身期で『妻の役割』(44.4%)が「夫婦同じ程度の役割」(25.0%)、「家族で分担」(22.2%)の合計47.2%を下回っており、他期と異なっている。

男性では、『妻の役割』は高齢期(86.8%)、家族成熟期(86.7%)、家族成長後期(81.1%)で8割を超えており、独身期(52.4%)で最も少ない。

図2-3 家庭における役割 (b) 食事の支度は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(c) 食後の後かたづけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上（71.8%）で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（36.8%）で最も多く、年代とともに少なくなる傾向にある。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（67.5%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代（47.5%）で最も多くなった。また、18～29歳と30代は「夫婦同じ程度の役割」が『妻の役割』より多い。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部と南加賀（ともに4.9%）が最も多く、『妻の役割』は能登中部（66.7%）で最も多い。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（26.1%）が最も多くなっている。

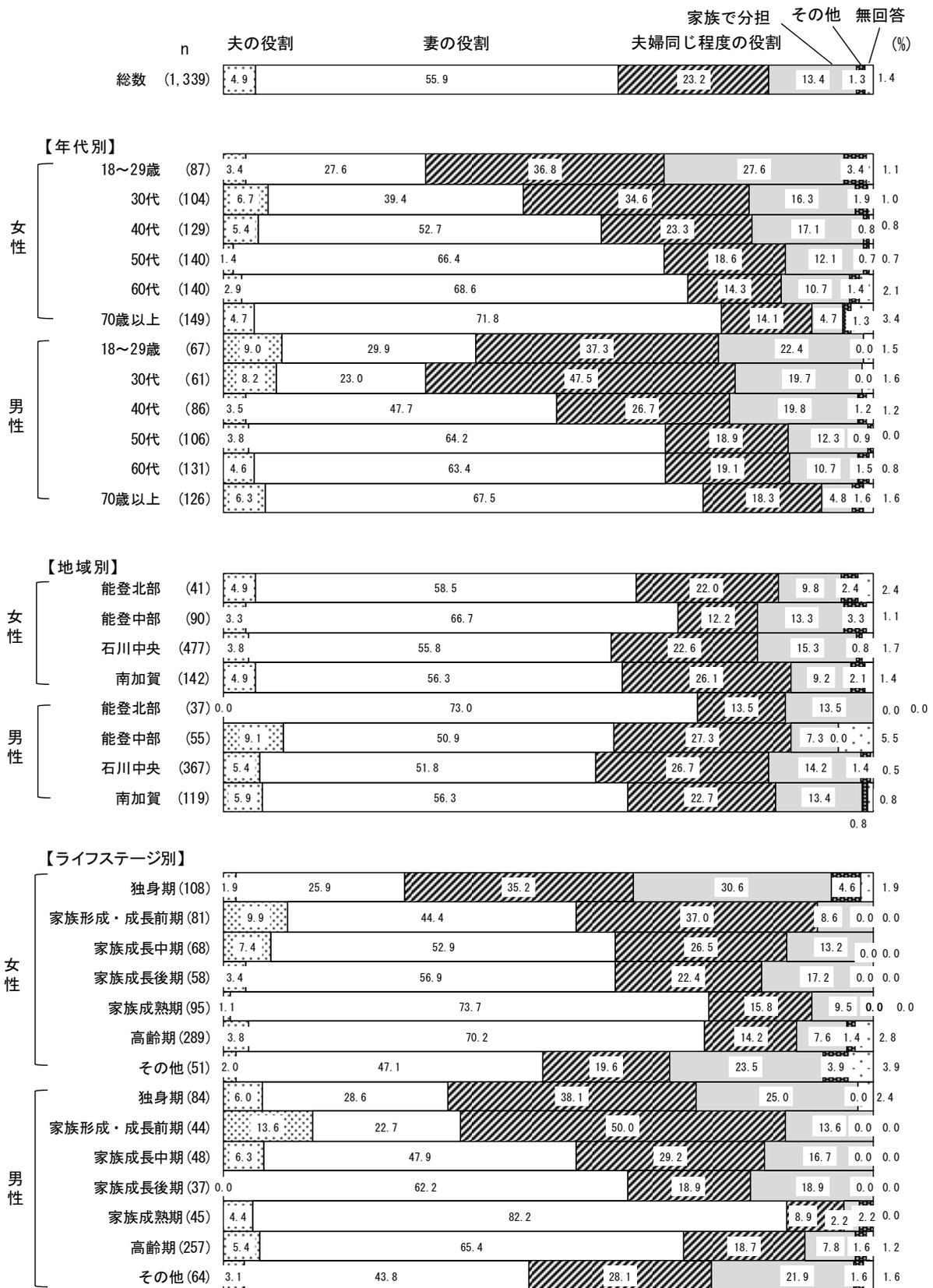
男性では、『妻の役割』は能登北部（73.0%）で最も多く、他地域は5割台となっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期（73.7%）で最も多く、独身期（25.9%）で最も少ない。独身期は、『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」（35.2%）、「家族で分担」（30.6%）の方が多くなっている一方、独身期以外は『妻の役割』が最も多い。

男性では、『妻の役割』は家族形成・成長前期（22.7%）に続いて、独身期（28.6%）の順に少なく、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（50.0%）に続いて、独身期（38.1%）の順で多くなっている。

図2-4 家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(d) 洗濯は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上（83.2%）で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は30代（26.9%）で最も多い。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（87.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代（37.7%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登北部（73.2%）で最も多い。

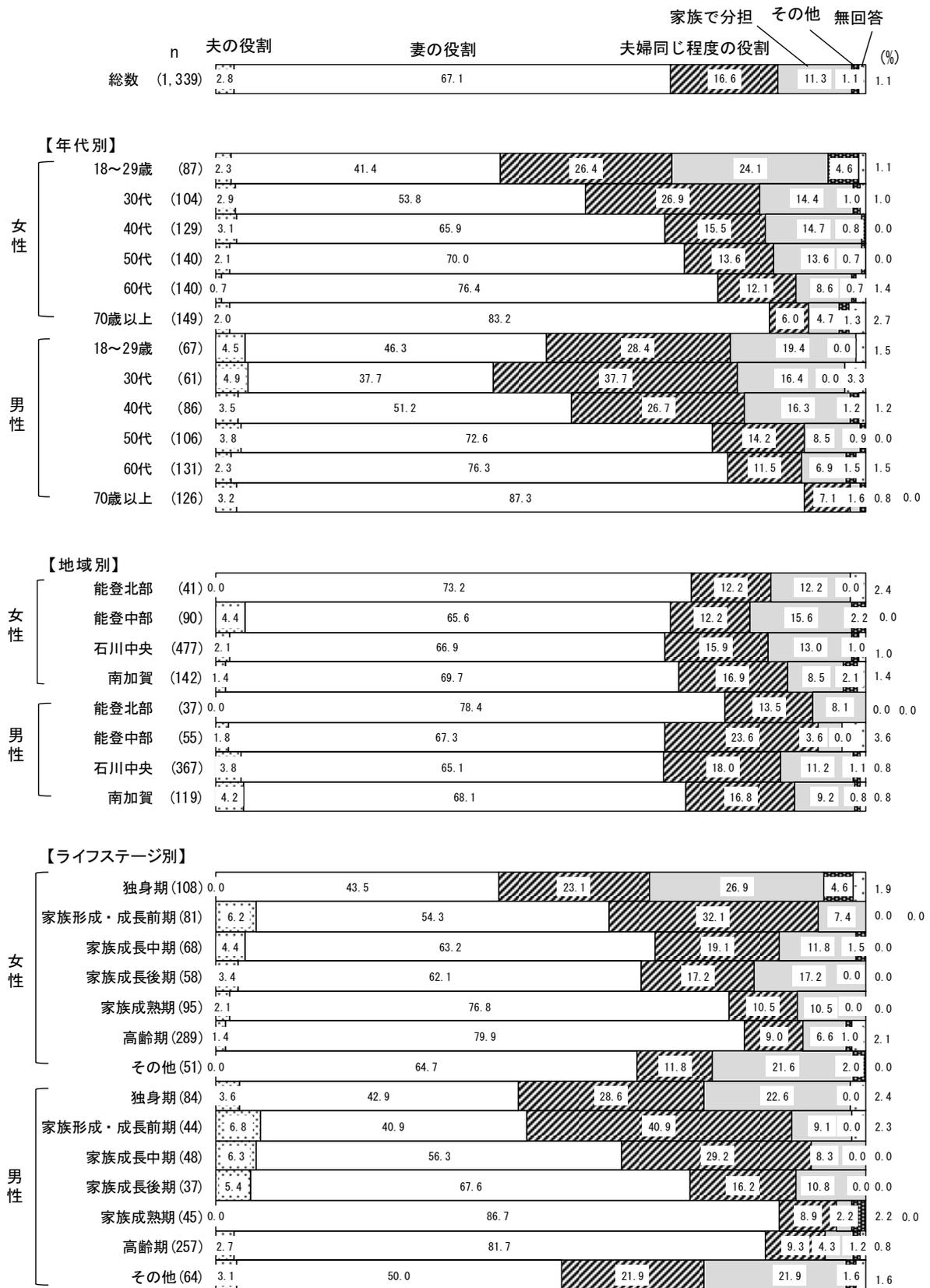
男性でも、『妻の役割』は能登北部（78.4%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は高齢期（79.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（32.1%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は独身期（42.9%）、家族形成・成長前期（40.9%）と5割未満となる一方、家族成長後期（86.7%）、高齢期（81.7%）と8割を超えている。

図2-5 家庭における役割 (d) 洗濯は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(e) 掃除は

【年代別】

男女ともに、40代以上では『妻の役割』が最も多く、18～29歳は『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。また、30代では、女性は『妻の役割』（41.3%）が最も多い一方で、男性は「夫婦同じ程度の役割」（50.8%）が最も多く約半数となっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』が能登北部（61.0%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」が石川中央（26.2%）で最も多くなっている。

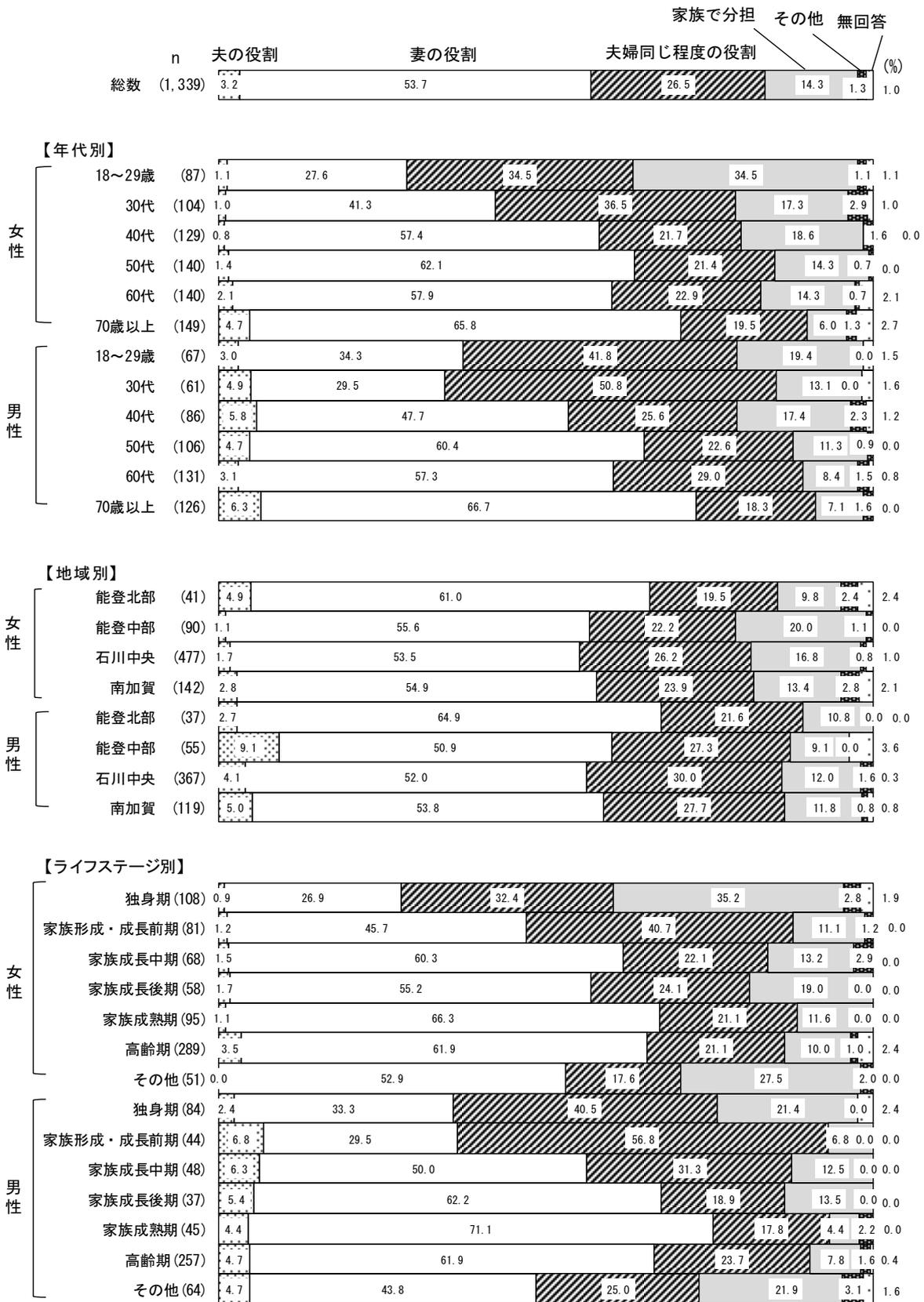
男性においても、『妻の役割』は能登北部（64.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央（30.0%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』が家族成熟期（66.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（40.7%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』が家族成熟期（71.1%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（56.8%）で最も多くなっている。また、男女ともに独身期と男性の家族形成・成長前期では『妻の役割』よりも「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。

図2-6 家庭における役割 (e) 掃除は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(f) ごみ出しは

【年代別】

女性では、『夫の役割』は30代(32.7%)で最も多くなっている。『妻の役割』は50代(52.1%)が最も多く、18～29歳(12.6%)で最も少ない。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳(29.9%)で『夫の役割』(20.7%)、『妻の役割』(12.6%)よりも多くなっている。

男性では、『夫の役割』は70歳以上(48.4%)で最も多く、『妻の役割』は50代(32.1%)で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳(38.8%)で、『夫の役割』(25.4%)、『妻の役割』(17.9%)よりも多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は南加賀(26.1%)で最も多く、『妻の役割』は能登北部(41.5%)で最も多くなっている。

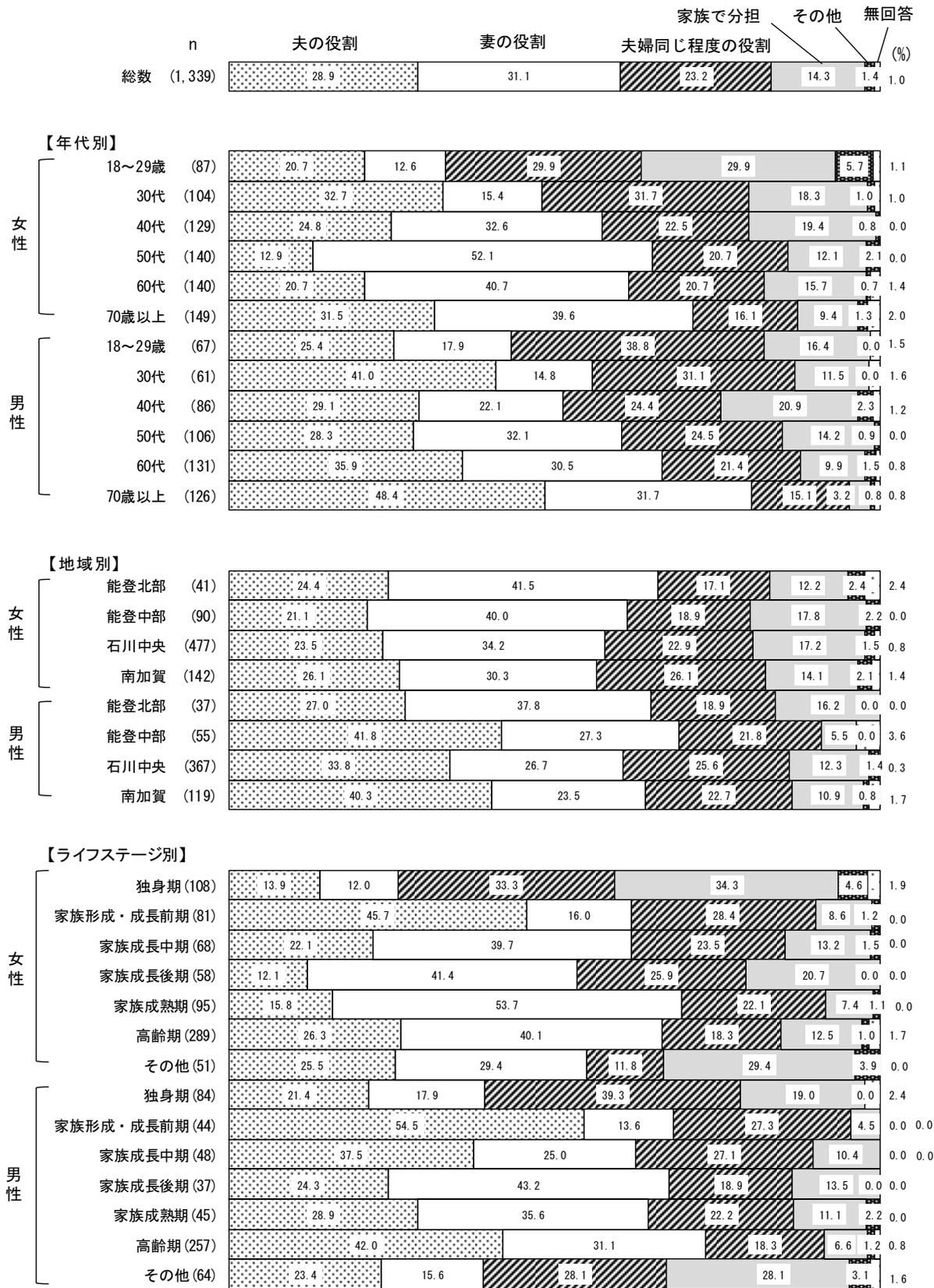
男性では、『夫の役割』は能登中部(41.8%)で最も多く、『妻の役割』は能登北部(37.8%)で最も多くなっている。「夫婦同程度の役割」は石川中央(25.6%)が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族形成・成長前期(45.7%)で最も多く、『妻の役割』は家族成熟期(53.7%)で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族形成・成長前期(54.5%)で最も多く、『妻の役割』は家族成長後期(43.2%)で最も多くなっている。また、男女ともに「夫婦同じ程度の役割」は独身期で最も多く、それぞれの『夫の役割』、『妻の役割』よりも多くなっている。

図2-7 家庭における役割 (f) ごみ出しは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(g) 日常の買い物は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は18～29歳（47.1%）を除いて6割以上となっている。

男性では、18～29歳と30歳で『妻の役割』が4割前後とそれ以外の年代より少ない一方で、「夫婦同じ程度の役割」と「家族で分担」の合計は、他の年代より多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登中部（73.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（24.6%）で最も多くなっている。

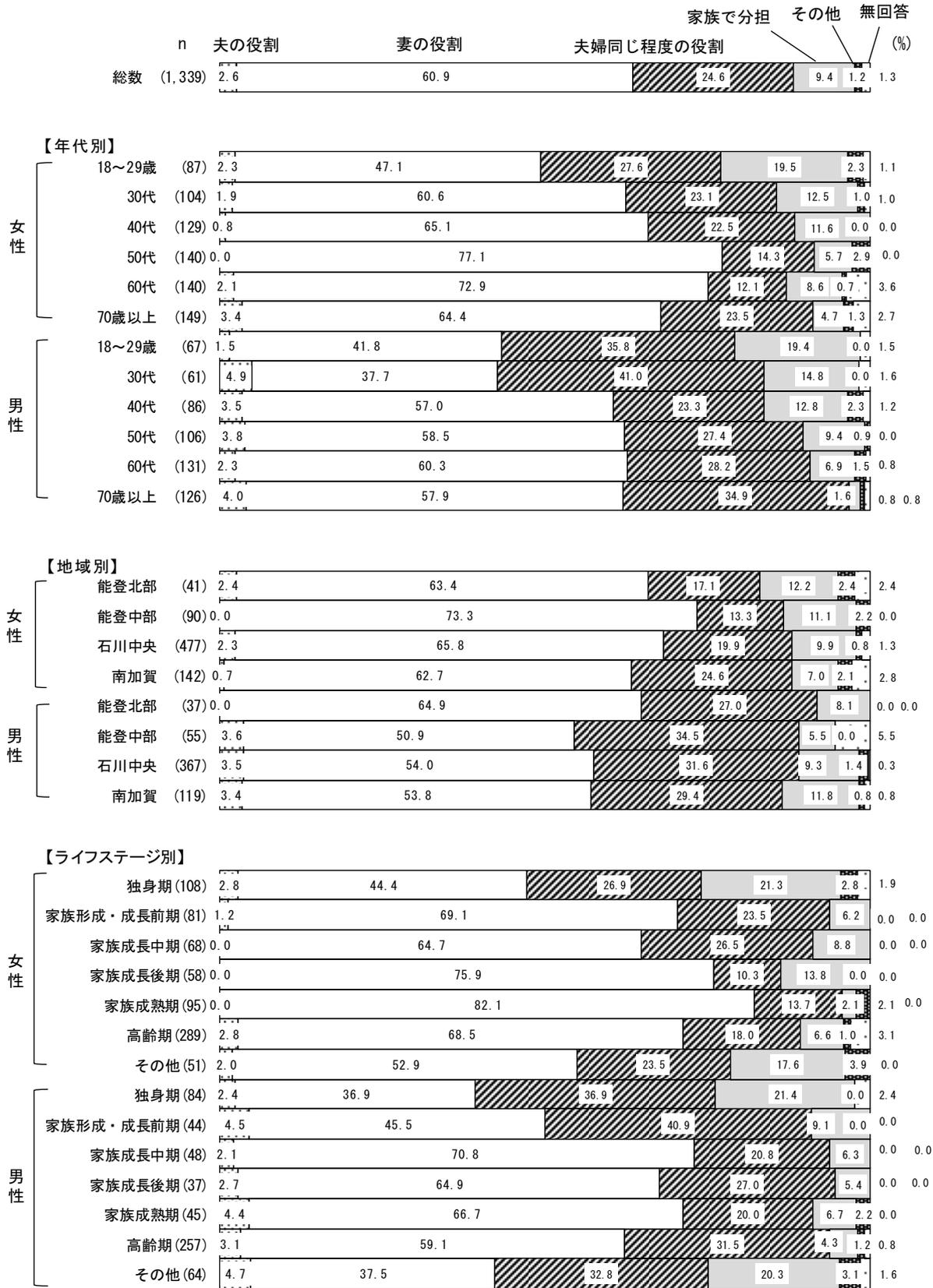
男性では、『妻の役割』は能登北部（64.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部（34.5%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期（82.1%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（26.9%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成長中期（70.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（40.9%）が最も多くなっている。

図2-8 家庭における役割 (g) 日常の買い物は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(h) 高額商品の購入の決定は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は70歳以上（37.6%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（52.9%）、30代（52.9%）、50代（50.0%）で5割以上となっている。

男性では、『夫の役割』は60代（36.6%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は40代（53.5%）で最も多く、40代以下ではすべての年代で5割以上となっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部（34.1%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（48.6%）で最も多くなっている。

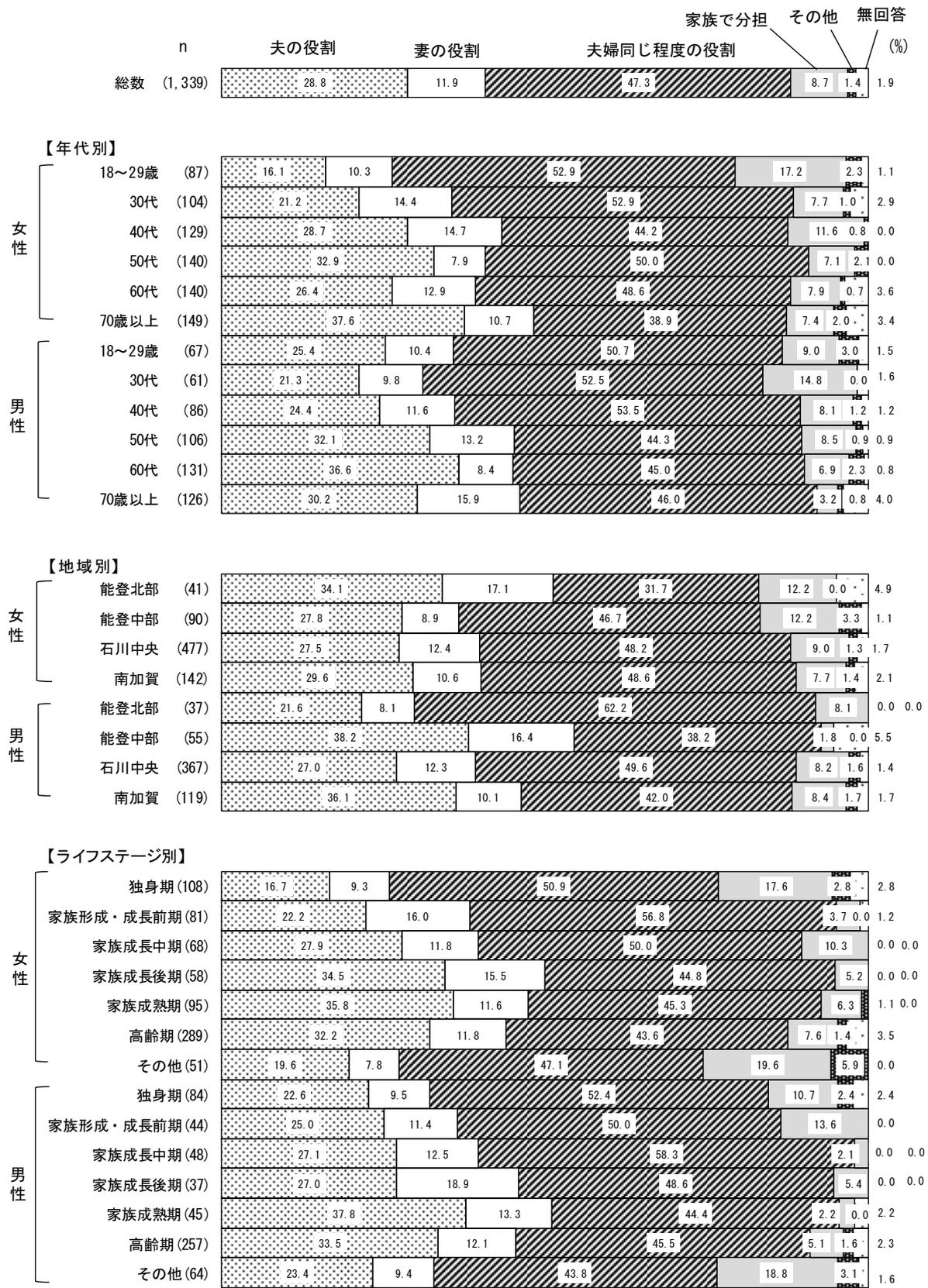
男性では、『夫の役割』は能登中部（38.2%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では能登北部（62.2%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族成熟期（35.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、家族形成・成長前期（56.8%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族成熟期（37.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、家族成長中期（58.3%）が最も多くなっている。

図2-9 家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は (年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(i) 高齢者や病身者の介護や看護は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代(49.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(47.1%)が最も多くなっている。

男性においても、『妻の役割』は60代(44.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(55.7%)が最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登北部(51.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(30.0%)で最も多くなっている。

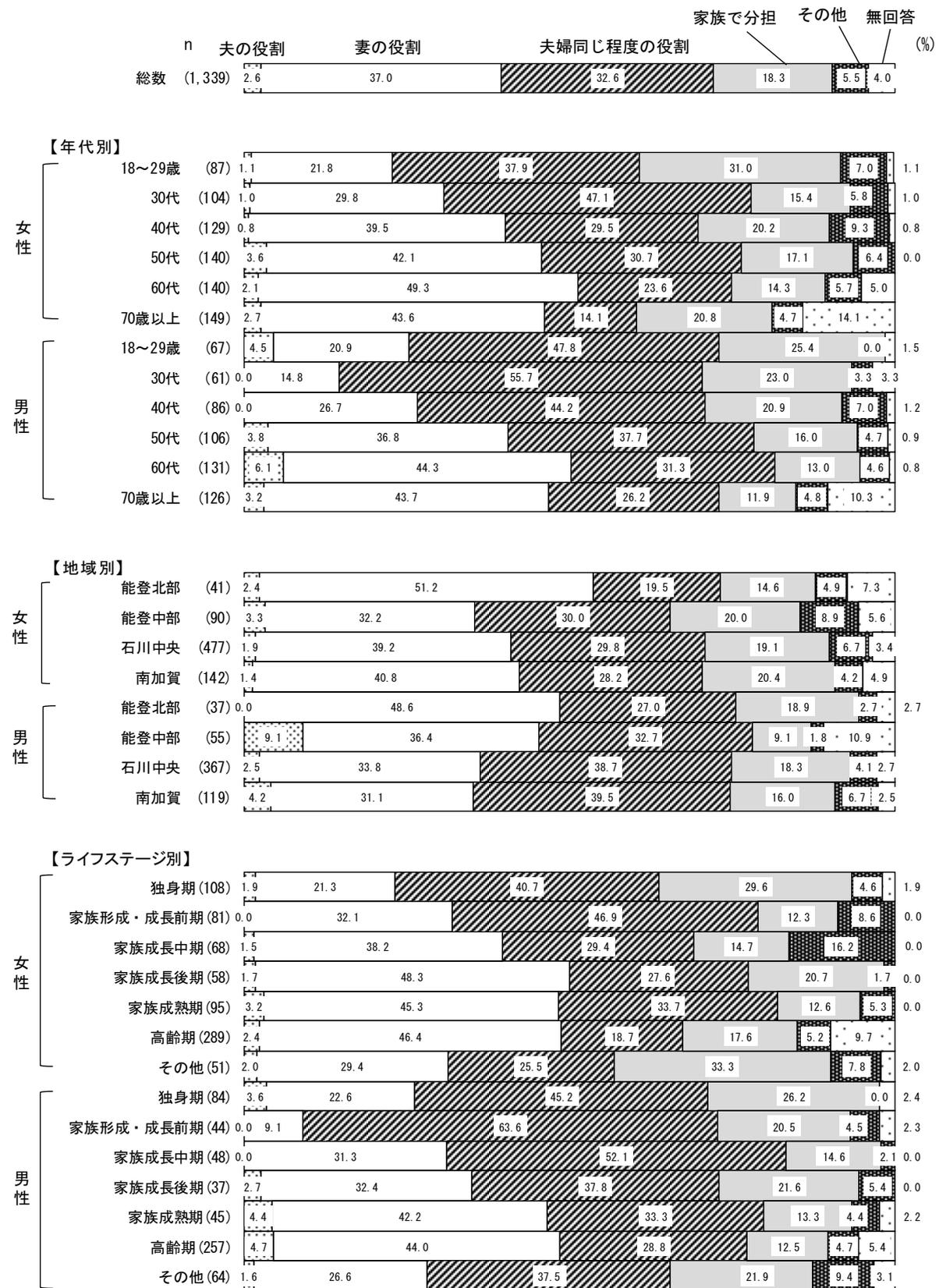
男性では、『妻の役割』は能登北部(48.6%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀(39.5%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成長後期(48.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長期(46.9%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は高齢期(44.0%)で最も多い一方で、家族形成・成長前期(9.1%)で最も少ない。「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期(63.6%)が最も多くなっている。

図2-10 家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は (年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(j) 育児・しつけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は50代（48.6%）を中心に年代が上がっても下がっても少なくなる傾向にある。『夫の役割』は40代以外のすべての年代で0.0%となっている。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（44.4%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（55.2%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は石川中央（42.8%）が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では南加賀（46.5%）が最も多くなっている。

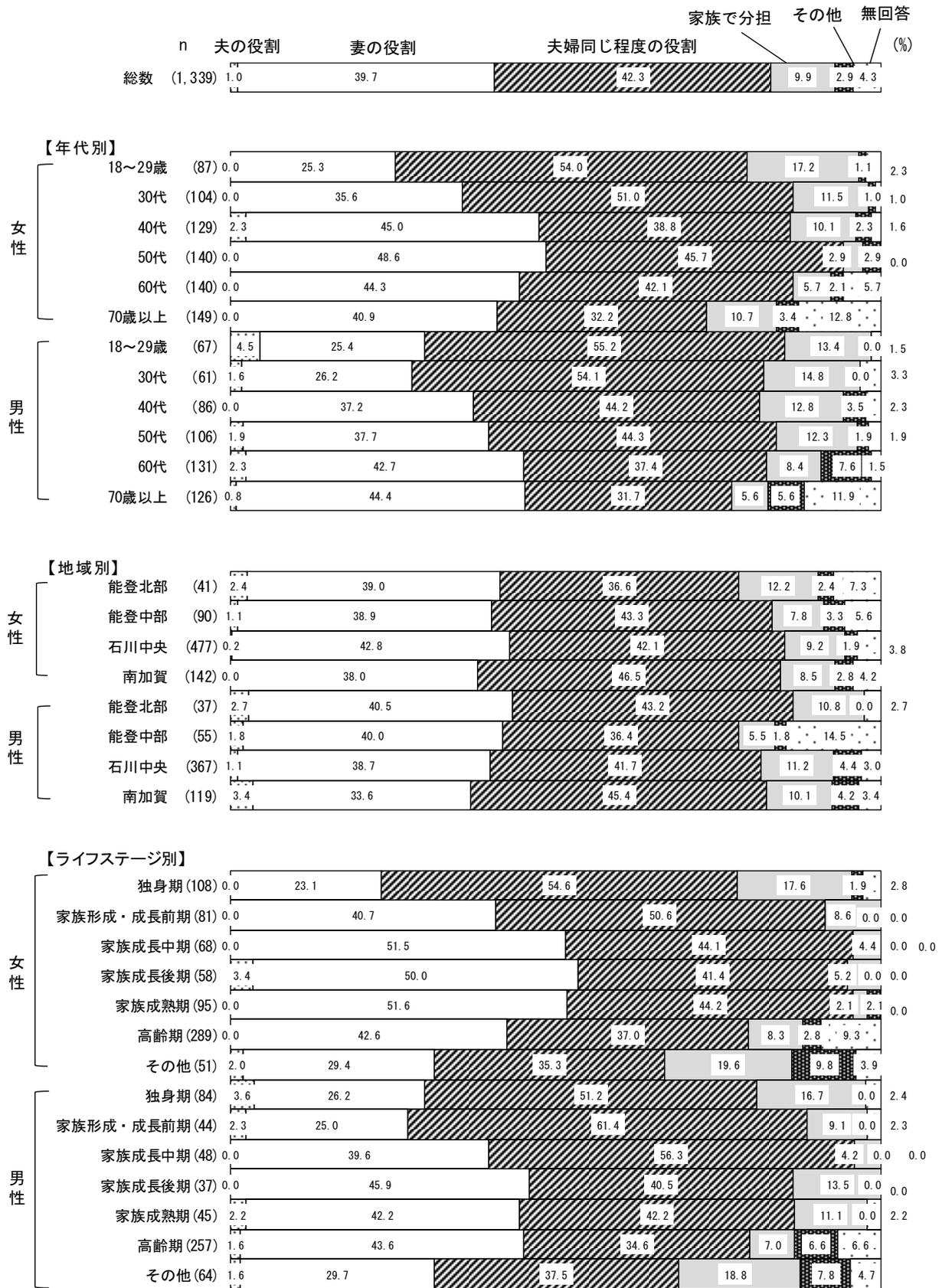
男性では、『妻の役割』は能登北部（40.5%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では南加賀（45.4%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、独身期と家族形成・成長前期で『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。

男性では、独身期、家族形成・成長前期、家族成長中期で『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっており、特に未就学児がいる家族形成・成長前期では2倍以上となっている。

図2-11 家庭における役割 (j) 育児・しつけは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(k) P T Aや地域活動への参加は

【年代別】

女性では、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（54.0%）が最も多く、『妻の役割』は18～29歳（18.4%）で最も低くなっている。

男性では、『夫の役割』は60代（21.4%）で最も多く、『妻の役割』は40代（39.5%）で、「夫婦同じ程度の役割」は30代（52.5%）が最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登中部（13.3%）で最も多く、『妻の役割』は石川中央（41.5%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」では能登北部（48.8%）が最も多い。

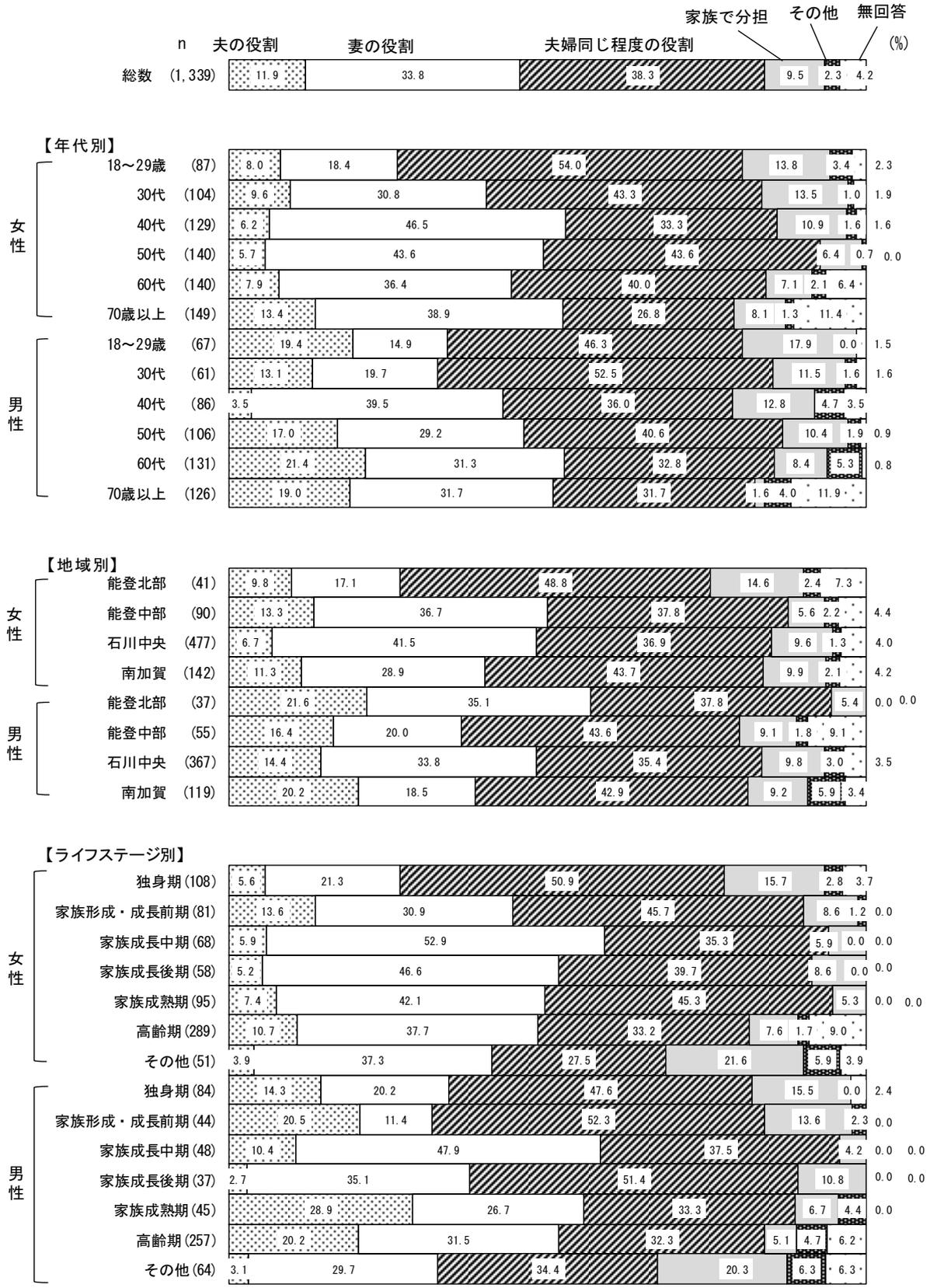
男性では、『夫の役割』は能登北部（21.6%）で最も多く、『妻の役割』も能登北部（35.1%）が最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」能登中部（43.6%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成長中期（52.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（50.9%）が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は女性と同じく家族成長中期（47.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では、家族形成・成長前期（52.3%）が最も多くなっている。

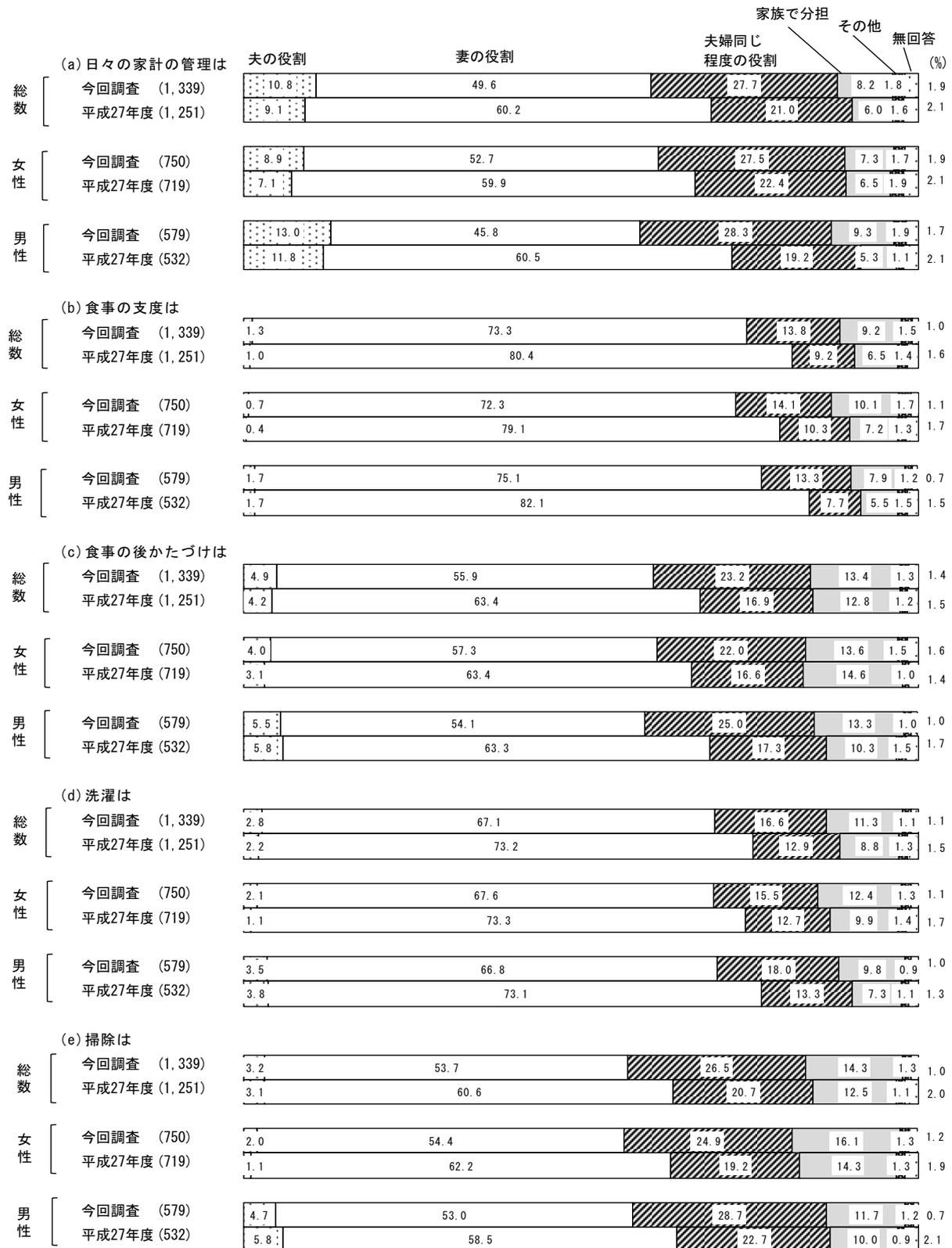
図2-12 家庭における役割 (k) P T Aや地域活動への参加は (年代別、地域別、ライフステージ別)

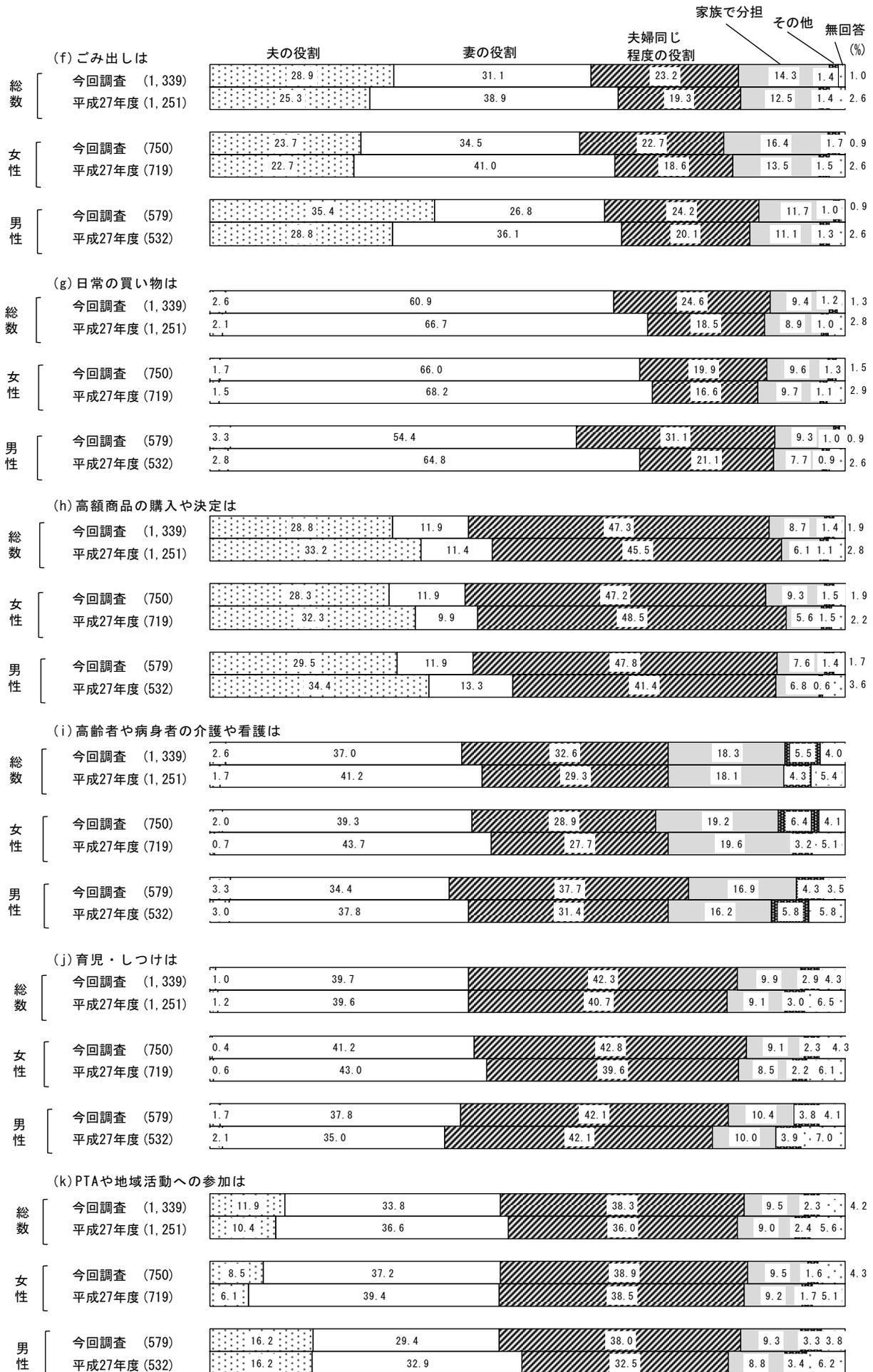


【平成27年度調査との比較】

“ (h) 高額商品の購入の決定は”、 “ (j) 育児・しつけは” を除く全ての項目で『妻の役割』が前回調査から減少し、「夫婦同じ程度の役割」が全ての項目で増加している。

図2-13 家庭における役割（平成27年度調査との比較）





2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

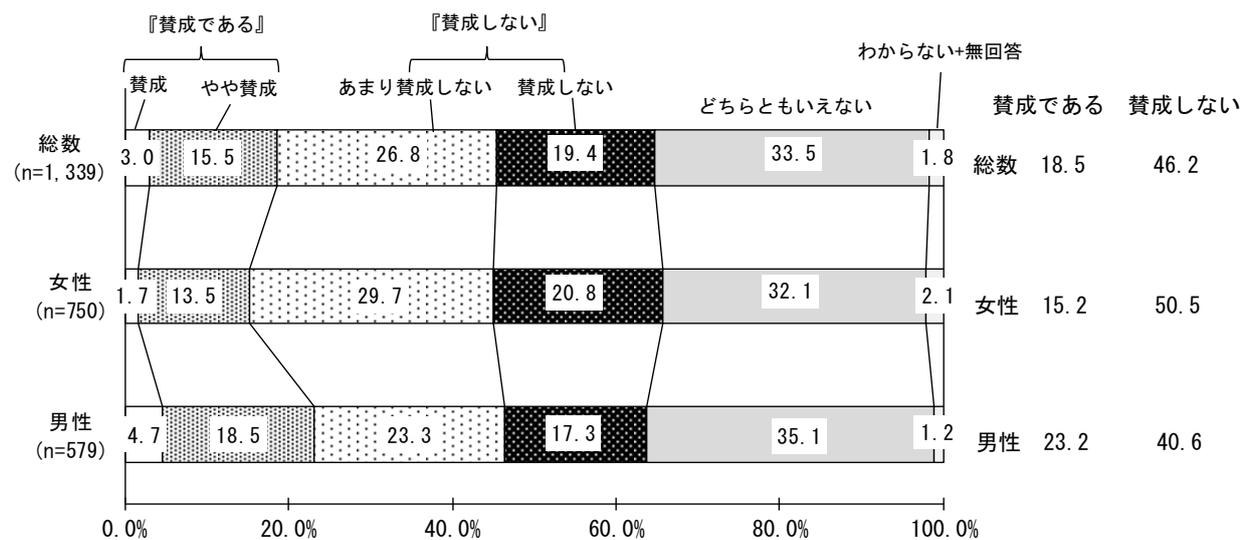
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「賛成」(3.0%)、「やや賛成」(15.5%)を合わせて『賛成である(計)』は18.5%となっている。一方、「あまり賛成しない」(26.8%)、「賛成しない」(19.4%)を合わせた『賛成しない(計)』は46.2%となり『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を27.7ポイント上回っている。「どちらともいえない」は33.5%となっている。

女性では、『賛成である(計)』は15.2%、『賛成しない(計)』は50.5%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を35.3ポイント上回った。

男性では、『賛成である(計)』は23.2%、『賛成しない(計)』は40.6%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を17.4ポイント上回っている。

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (性別)



※『賛成である (計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
 『賛成しない (計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。以降の頁も同様。

「男は仕事、女は家庭」という考え方

【年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。18～29歳で『賛成しない（計）』（75.9%）が『賛成である（計）』（4.6%）を71.3ポイント上回っている。『賛成しない（計）』は70歳以上（37.6%）が最も少なくなっている。

男性では、70歳以上が唯一『賛成である（計）』（34.1%）が『賛成しない（計）』（28.5%）を上回っている。30代で最も『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を大きく上回っており、42.6ポイント差となっている。

【地域別】

女性では、能登北部で『賛成しない（計）』（51.2%）が『賛成である（計）』（12.2%）を39.0ポイント上回り、最も差が大きい。他の地域でも差は30ポイント台となっている。

男性では、どの地域でも『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っており、その差は10ポイント台となっている。

【未既婚別】

女性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は未婚（6.0%）で最も少なくなっている。

男性では、離死別以外で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。離死別では『賛成しない（計）』と『賛成である（計）』が同率（30.8%）となっている。

【職業別】

女性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は勤め人（11.7%）で最も少なくなっている。

男性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は勤め人（21.4%）で最も少なくなっている。

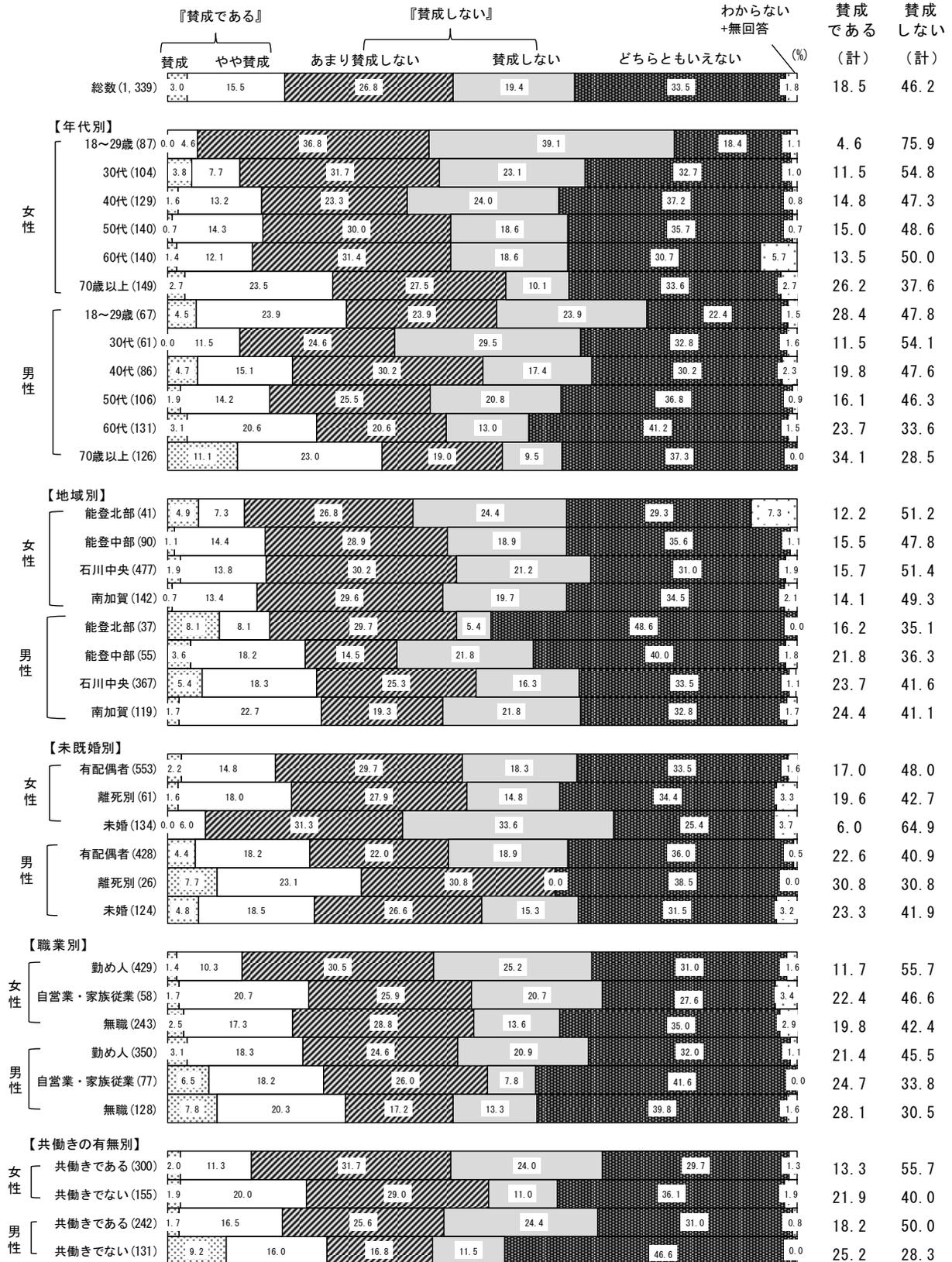
【共働きの有無別】

女性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』（55.7%）が『賛成である（計）』（13.3%）を42.4ポイント上回り、共働きでない場合は、18.1ポイント上回っている。

男性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』（50.0%）が『賛成である（計）』（18.2%）を31.8ポイント上回り、共働きでない場合は、3.1ポイント上回っている。

図3-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

(年代別、地域別、未既婚別、職業別、共働きの有無別)

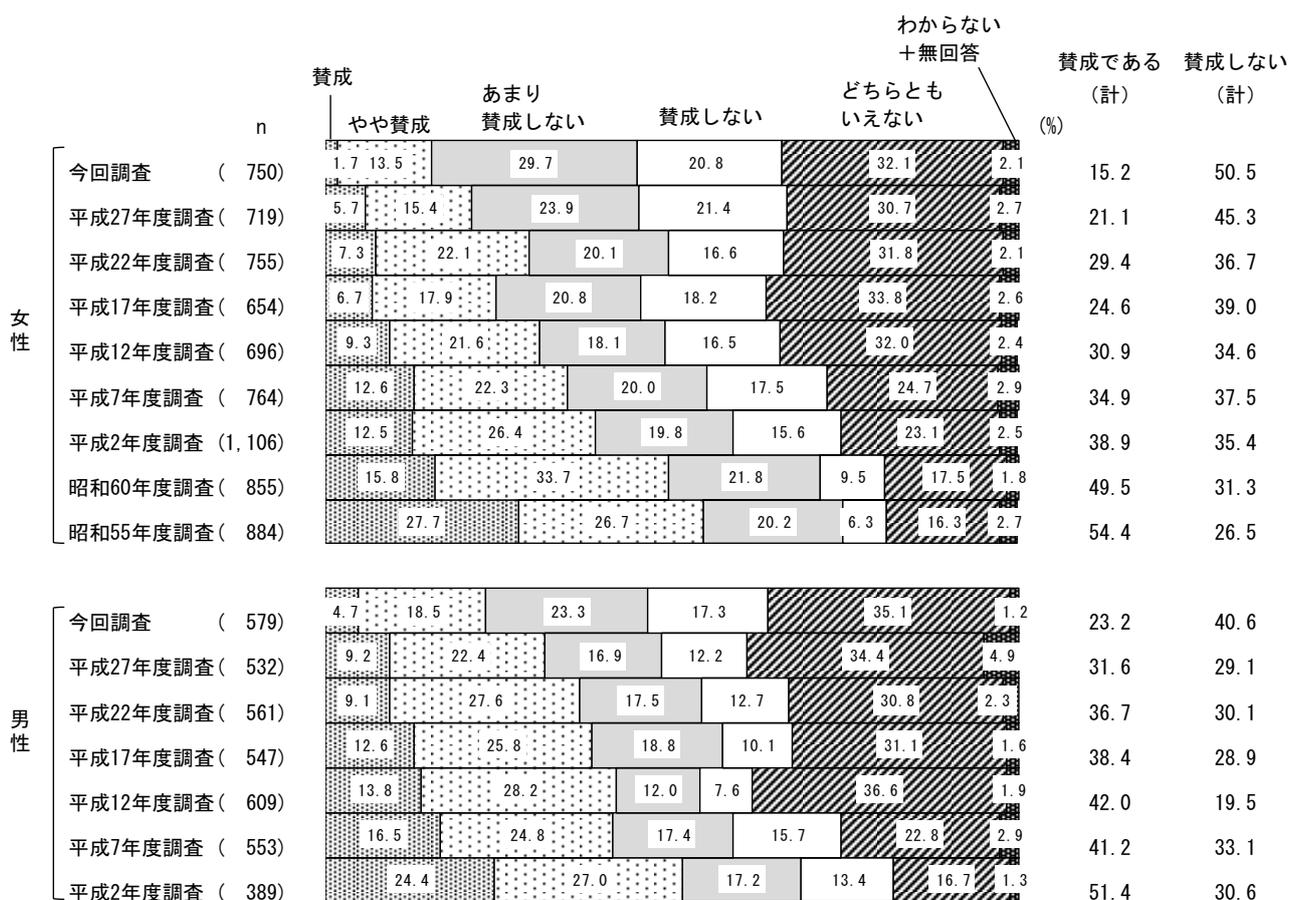


【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性では、『賛成である（計）』は昭和55年度から減少傾向にあり、今回調査でも引き続き減少している。平成2年度までは、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っていたが、平成7年度以降は『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で35.3ポイントと最も大きくなった。

男性では、『賛成である（計）』は平成12年度以降減少を続け、今回調査では23.2%と最も小さくなった。今回調査で、初めて『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で17.4ポイントとなった。

図3-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方 経年比較

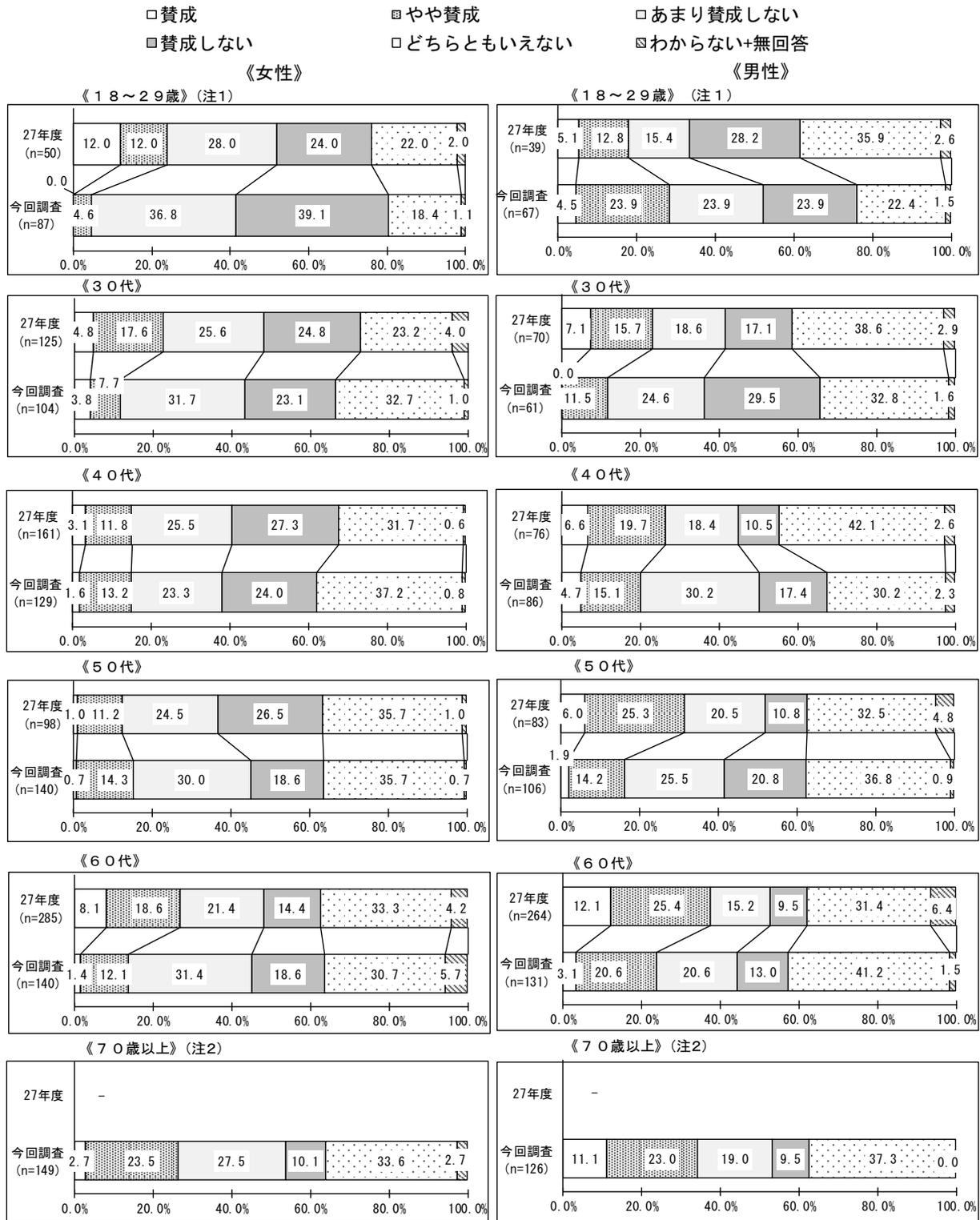


【平成27年度調査との年代別比較】

年代別に比較すると、女性では、18～29歳で『賛成しない（計）』が大幅に増加した（23.9ポイント）。40代、50代は『賛成しない（計）』が減少した。

男性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、『賛成である（計）』は18～29歳が10.5ポイント増加している。

図3-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方（平成27年度調査との年代別比較）



(注1) これまでの調査では対象年齢を「満20歳以上」としていたが、今回調査より「満18歳以上」としたため、平成27年度調査の結果に「18～19歳」は含まれない。

(注2) 今回の調査より、これまで「60歳以上」としていた年齢層の区分を「60歳代」「70歳以上」と分けたため、「70歳以上」の比較はできない。

3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由

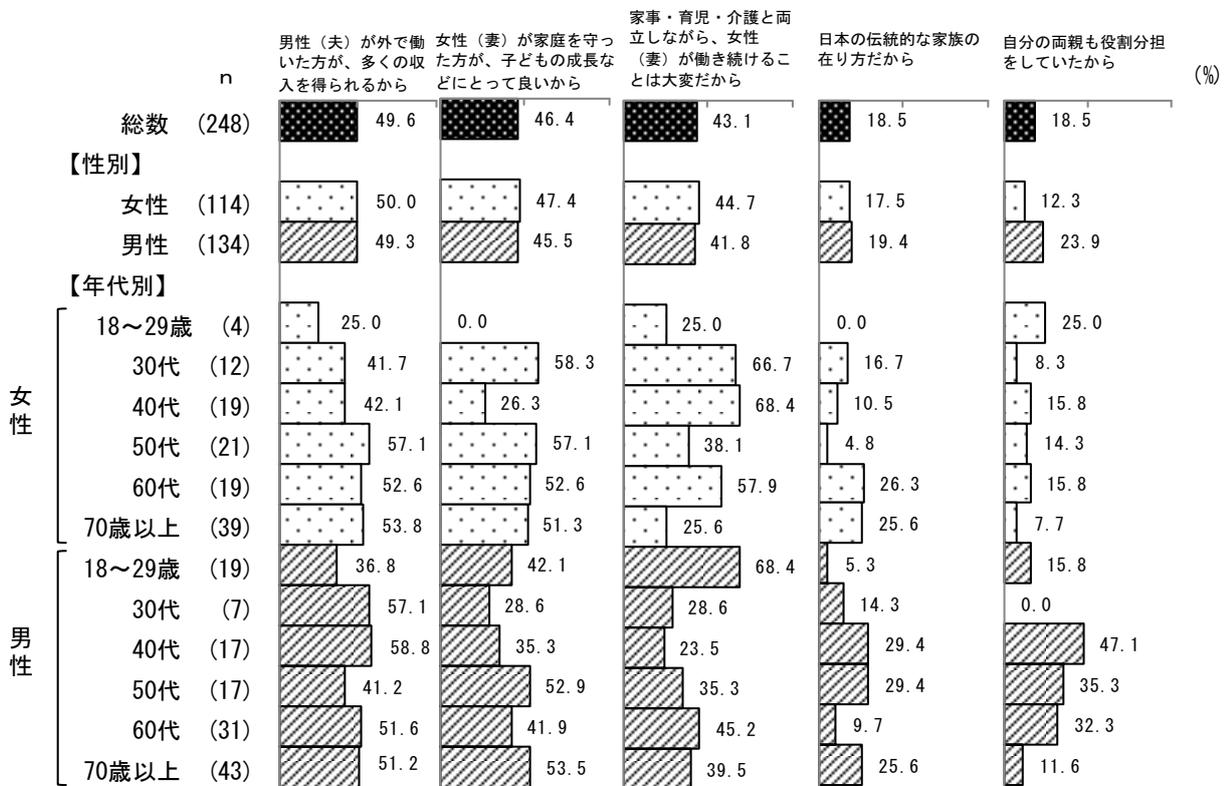
(問3で1または2に○をつけた方にお聞きします。)

問3-1 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも) [今年度新規調査項目]

【性別】
 多くの項目で目立った差は見られないが、「自分の両親も役割分担をしていたから」では女性(12.3%)より男性(23.9%)の方が11.6ポイント多くなっている。

【年代別】
 女性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性(妻)が働き続けることは大変だから」が30代(66.7%)と40代(68.4%)で6割を超え、他の年代より多くなっている一方で、男性では、18~29歳(68.4%)が唯一6割を超え、他の年代より多くなっている。

図 3-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由 (年代別)



4 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由

(問3で4または5に○をつけた方にお聞きします。)

問3-2 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも) [今年度新規調査項目]

【性別】

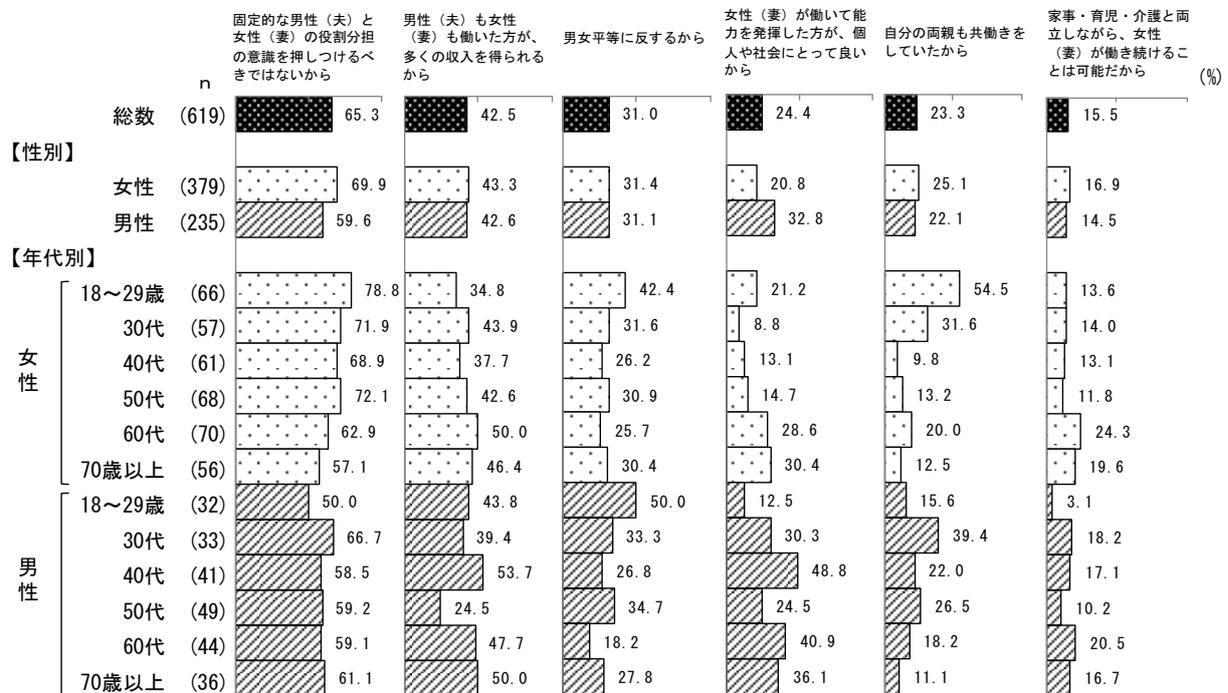
「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性(69.9%)、男性(59.6%)ともに最も多く、女性の方が10.3ポイント多くなっている。また、男女の差が最も大きいのは、「女性(妻)が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いから」で、男性の方が12.0ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、全ての年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18~29歳で「自分の両親も共働きをしていたから」(54.5%)が5割を超え、他の年代より多くなっている。

男性においても、全ての年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18~29歳で「男女平等に反するから」(50.0%)が5割と、他の年代より多くなっている。

図3-2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由(年代別)



5 男性が家事・育児を行うことのイメージ

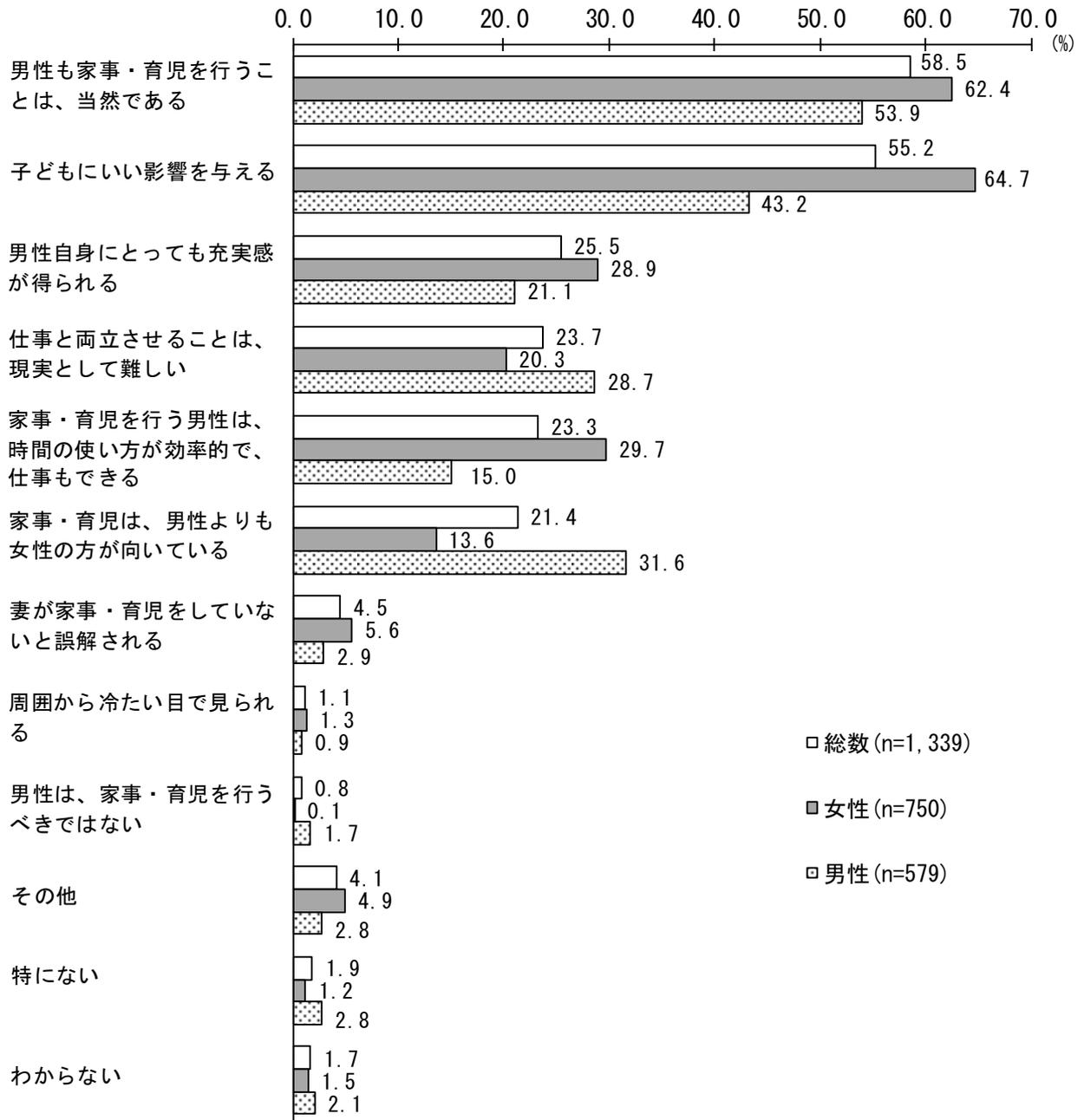
問4 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも) [今年度新規調査項目]

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(58.5%)が最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」(55.2%)が続いている。他は半数を下回っている。

女性では「子どもにいい影響を与える」が最も多く(女性64.7%、男性43.2%)、男性では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性62.4%、男性53.9%)が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもにいい影響を与える」(21.5ポイント差)が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」(18.0ポイント差)は男性のポイントが高くなっている。

図4-1 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性別）



男性が家事・育児を行うことのイメージ

【年代別】

女性では、「子どもにいい影響を与える」で30代(76.9%)、50代(62.9%)、70歳以上(49.7%)がそれぞれで最も多い。

男性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」で70歳以上を除き、いずれの年代でも最も多く、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」で70歳以上(50.8%)が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「子どもにいい影響を与える」で有配偶者(64.4%)、未婚(67.9%)がそれぞれ最も多くなっている。離死別では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(63.9%)が最も多くなっている。

男性では、「子どもにいい影響を与える」で離死別(65.4%)が最も多くなっている。「男性も家事・育児を行うことは、当然である」で有配偶者(52.1%)、未婚(59.7%)がそれぞれ最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、共働きの有無にかかわらず「子どもにいい影響を与える」が最も多くなっている。

男性では、共働きの有無にかかわらず「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が最も多くなっている。

図4-2 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧

(年代別、未既婚別、共働きの有無別)

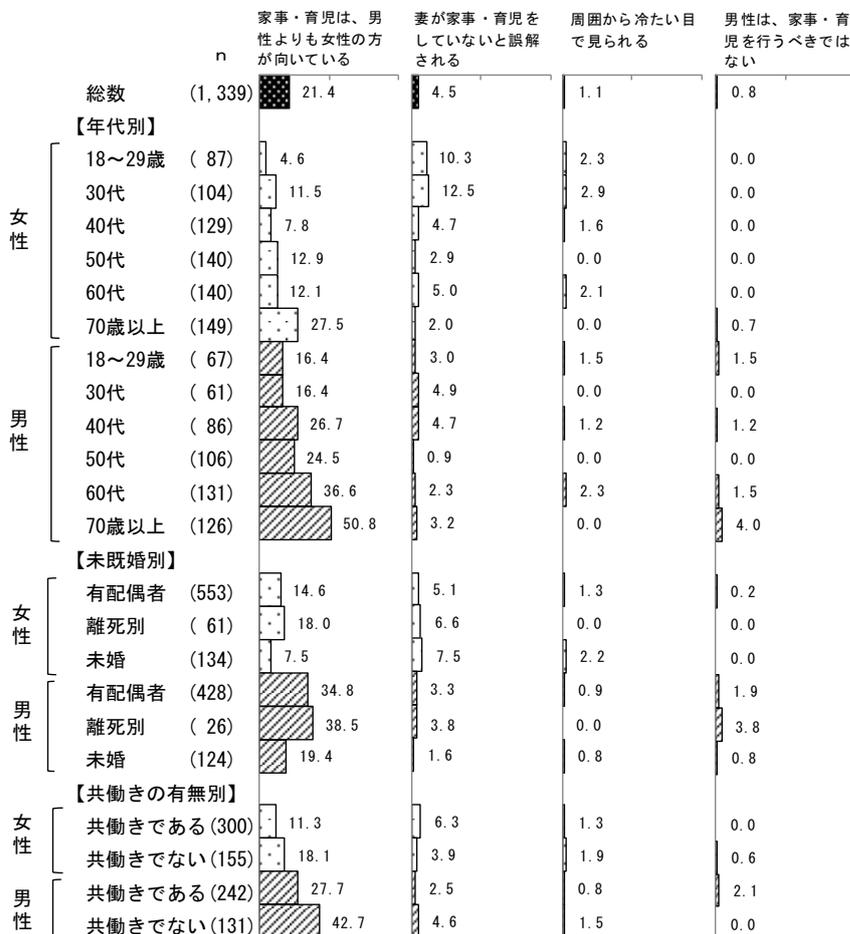
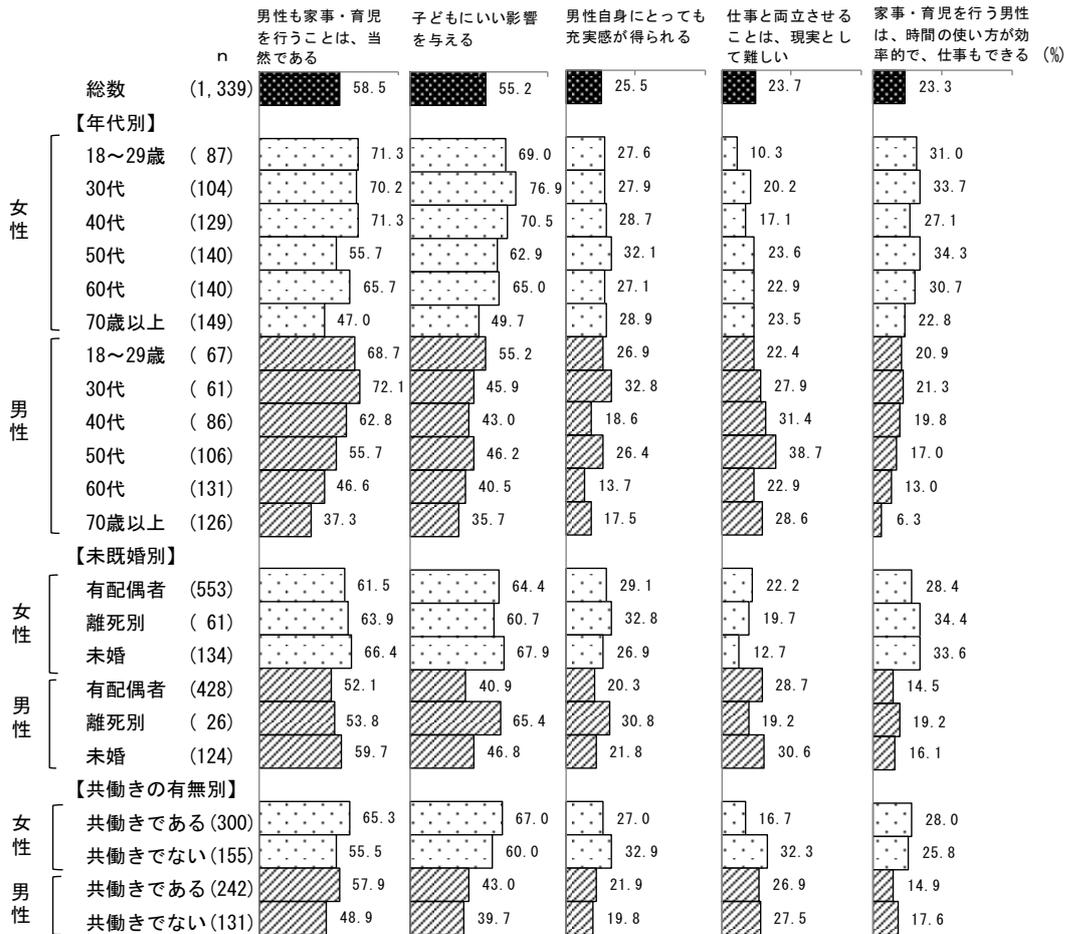


図4-3 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	男性も家事・育児を行うことは、当然である	子どもにいい影響を与える	男性自身にも充実感が得られる	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている	妻が家事・育児をしている	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他	特になし	わからない	
全体		1,339	58.5	55.2	25.5	23.7	23.3	21.4	4.5	1.1	0.8	4.1	1.9	1.7	
性×地域別	女性	能登北部	41	65.9	58.5	22.0	19.5	29.3	7.3	7.3	0.0	0.0	7.3	2.4	4.9
		能登中部	90	55.6	58.9	30.0	17.8	25.6	18.9	3.3	2.2	0.0	7.8	1.1	1.1
		石川中央	477	62.5	64.8	27.9	20.8	28.7	15.3	5.9	1.3	0.2	4.2	0.6	0.8
		南加賀	142	65.5	69.7	33.8	20.4	35.9	6.3	5.6	1.4	0.0	4.9	2.8	2.8
	男性	能登北部	37	56.8	27.0	18.9	18.9	8.1	40.5	0.0	0.0	8.1	0.0	2.7	0.0
		能登中部	55	60.0	40.0	16.4	27.3	14.5	25.5	5.5	1.8	0.0	0.0	1.8	3.6
		石川中央	367	55.0	45.8	23.4	29.4	17.2	30.2	2.5	1.1	1.4	3.0	2.7	1.9
		南加賀	119	46.2	41.2	16.8	30.3	10.9	35.3	3.4	0.0	1.7	4.2	3.4	2.5

※グレーのセルは属性中トップの項目

6 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて

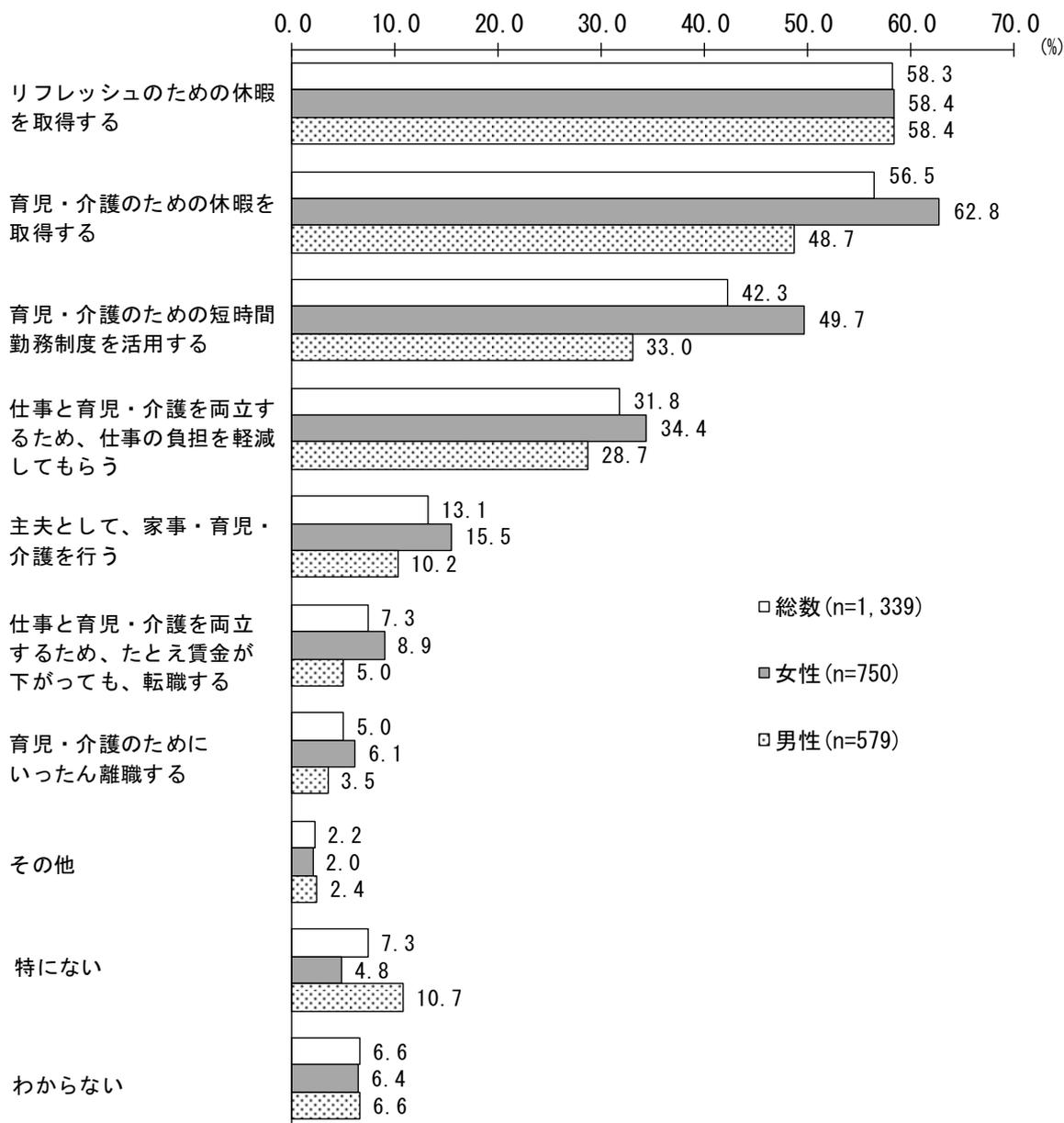
問5 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(〇はいくつでも) [今年度新規調査項目]

全体では、「リフレッシュのための休暇を取得する」(58.3%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得する」(56.5%)、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(42.3%)、「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」(31.8%)が続いている。

女性では「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多く(女性62.8%、男性48.7%)、男性では「リフレッシュのための休暇を取得する」(女性58.4%、男性58.4%)が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(16.7ポイント差)、「育児・介護のための休暇を取得する」(14.1ポイント差)で、女性のポイントが高くなっている。

図5-1 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧(性別)



男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて

【年代別】

女性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で60代(45.0%)、70歳以上(38.3%)が他の年代よりも少なくなっており、他の項目も同様の傾向にある。「育児・介護のための休暇を取得する」が50代(70.7%)を除く全ての年代で最も多い。

男性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で60代(51.9%)、70歳以上(42.1%)で他の年代よりも少なくなっており、他の項目も同様の傾向にある。「育児・介護のための休暇を取得する」が18～29歳(73.1%)で最も多い。

【未既婚別】

女性では、未既婚等を問わず「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多い。

男性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で離死別(69.2%)、有配偶者(57.2%)がそれぞれ最も多くなっている。未婚では「育児・介護のための休暇を取得する」(62.9%)が最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、「育児・介護のための休暇を取得する」で共働きである人(68.0%)が最も多くなっている。「リフレッシュのための休暇を取得する」で共働きでない人(58.1%)が最も多くなっている。

男性では、共働きの有無を問わず「リフレッシュのための休暇を取得する」が最も多い。

図5-2 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧
(年代別、共働きの有無別)

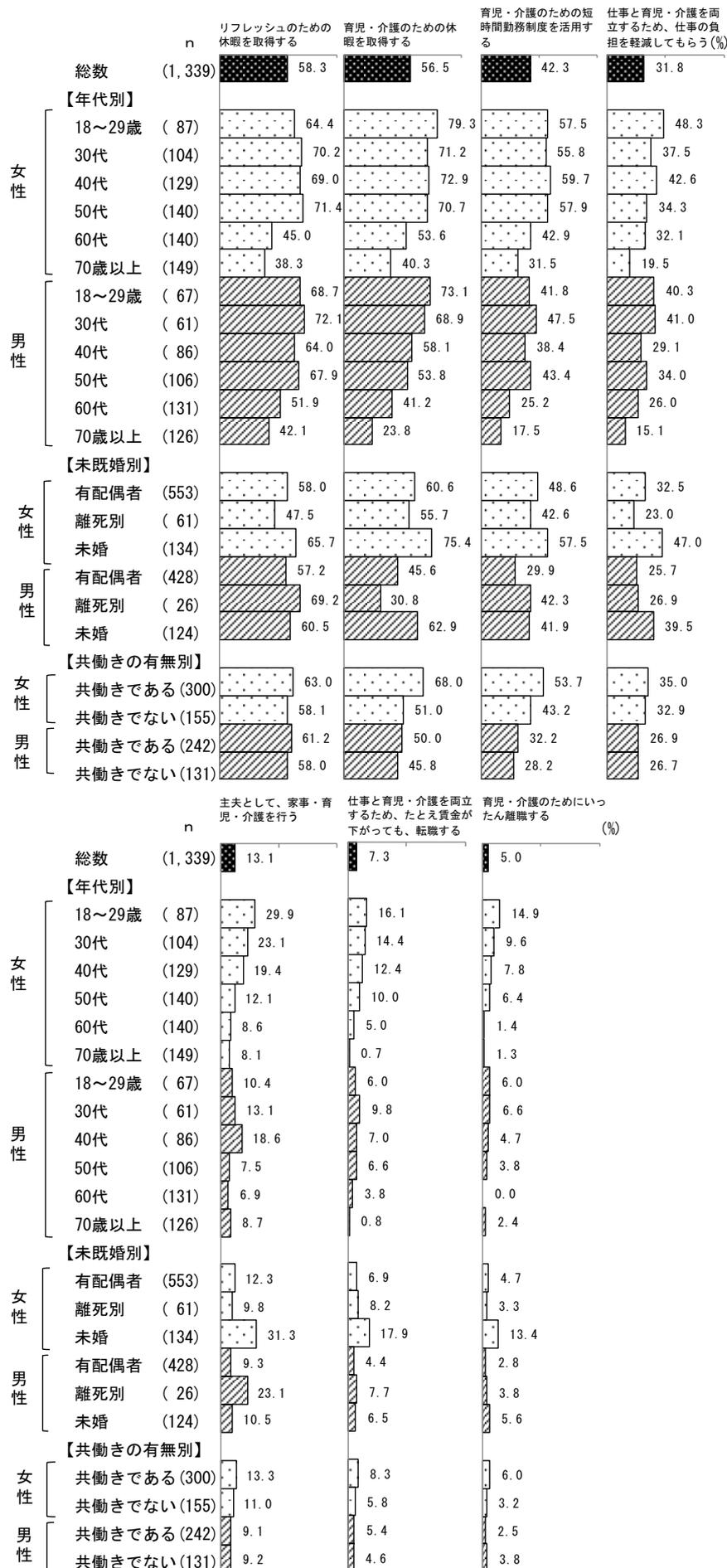


図5-3 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧
(性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	リフレッシュのための休暇を取得する	育児・介護のための休暇を取得する	育児・介護のための短時間勤務制度を活用する	仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう	主夫として、家事・育児・介護を行う	仕事と育児・介護を両立するため、たとえば賃金が下がっても、転職する	育児・介護のためにいったん離職する	その他	特になし	わからない	
全体		1,339	58.3	56.5	42.3	31.8	13.1	7.3	5.0	2.2	7.3	6.6	
性×地域別	女性	能登北部	41	53.7	61.0	43.9	34.1	14.6	9.8	4.9	2.4	0.0	7.3
		能登中部	90	43.3	60.0	37.8	24.4	2.2	1.1	1.1	1.1	8.9	6.7
		石川中央	477	60.4	65.4	53.0	36.3	18.9	10.5	6.9	1.5	4.4	6.1
		南加賀	142	62.7	56.3	47.9	34.5	12.7	8.5	7.0	4.2	4.9	7.0
	男性	能登北部	37	54.1	48.6	29.7	21.6	8.1	0.0	2.7	5.4	16.2	5.4
		能登中部	55	61.8	43.6	25.5	21.8	12.7	3.6	0.0	0.0	7.3	5.5
		石川中央	367	58.6	50.4	34.6	28.3	11.2	5.2	4.1	1.9	10.4	6.8
		南加賀	119	58.0	45.4	31.9	34.5	6.7	6.7	3.4	4.2	11.8	6.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

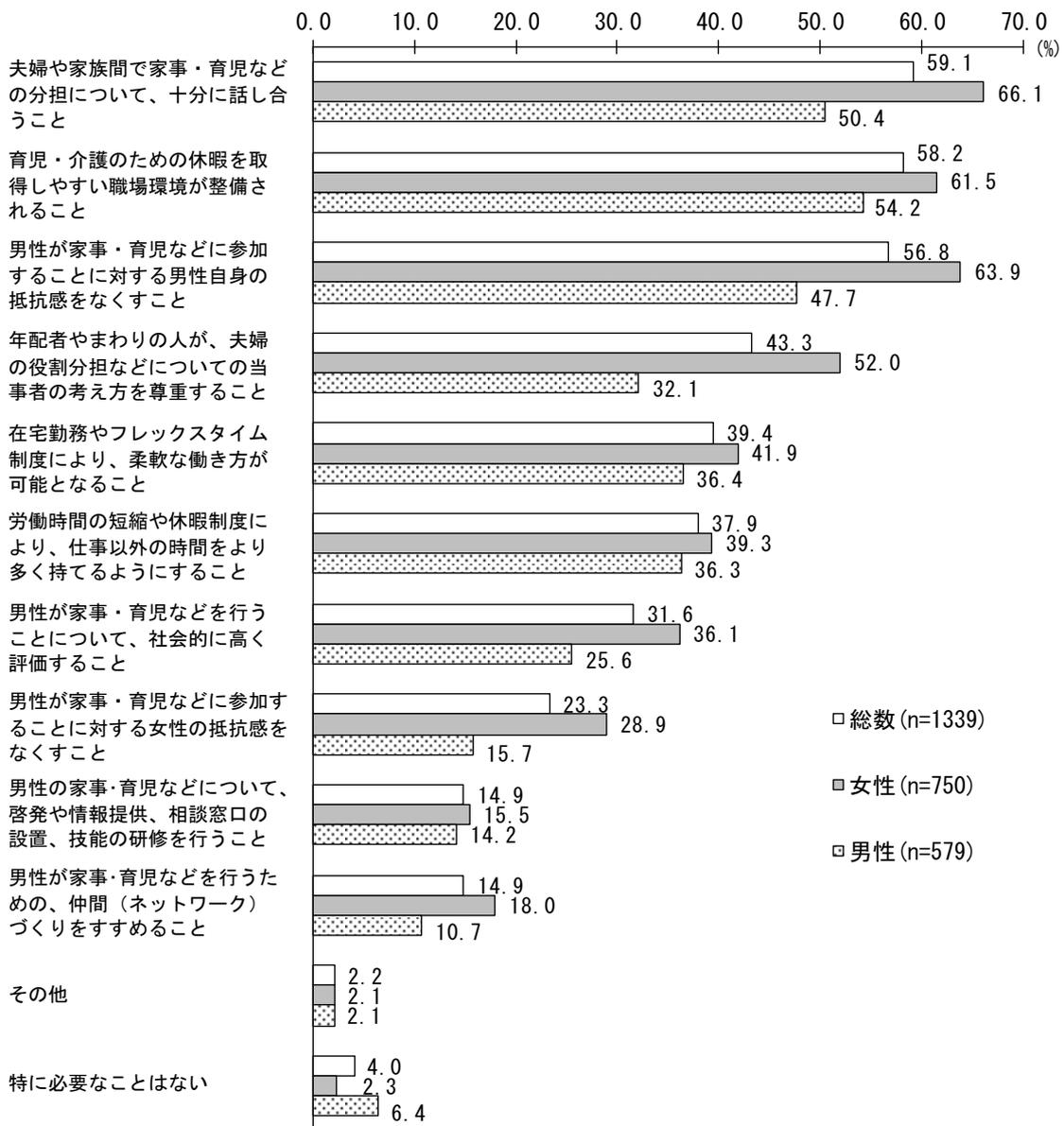
7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(59.1%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」(58.2%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(56.8%)が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が19.9ポイント多くなっている。

図6-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧(性別)



男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

【年代別】

女性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は30代（77.9%）、18～29歳（77.0%）、60代（69.3%）、70歳以上（57.7%）で最も多く、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は50代（66.4%）で最も多い。

男性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は60代（55.7%）で最も多く、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は30代（68.9%）、50代（64.2%）、40代（58.1%）で最も多い。「労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は30代で唯一6割を超えている。

図6-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧

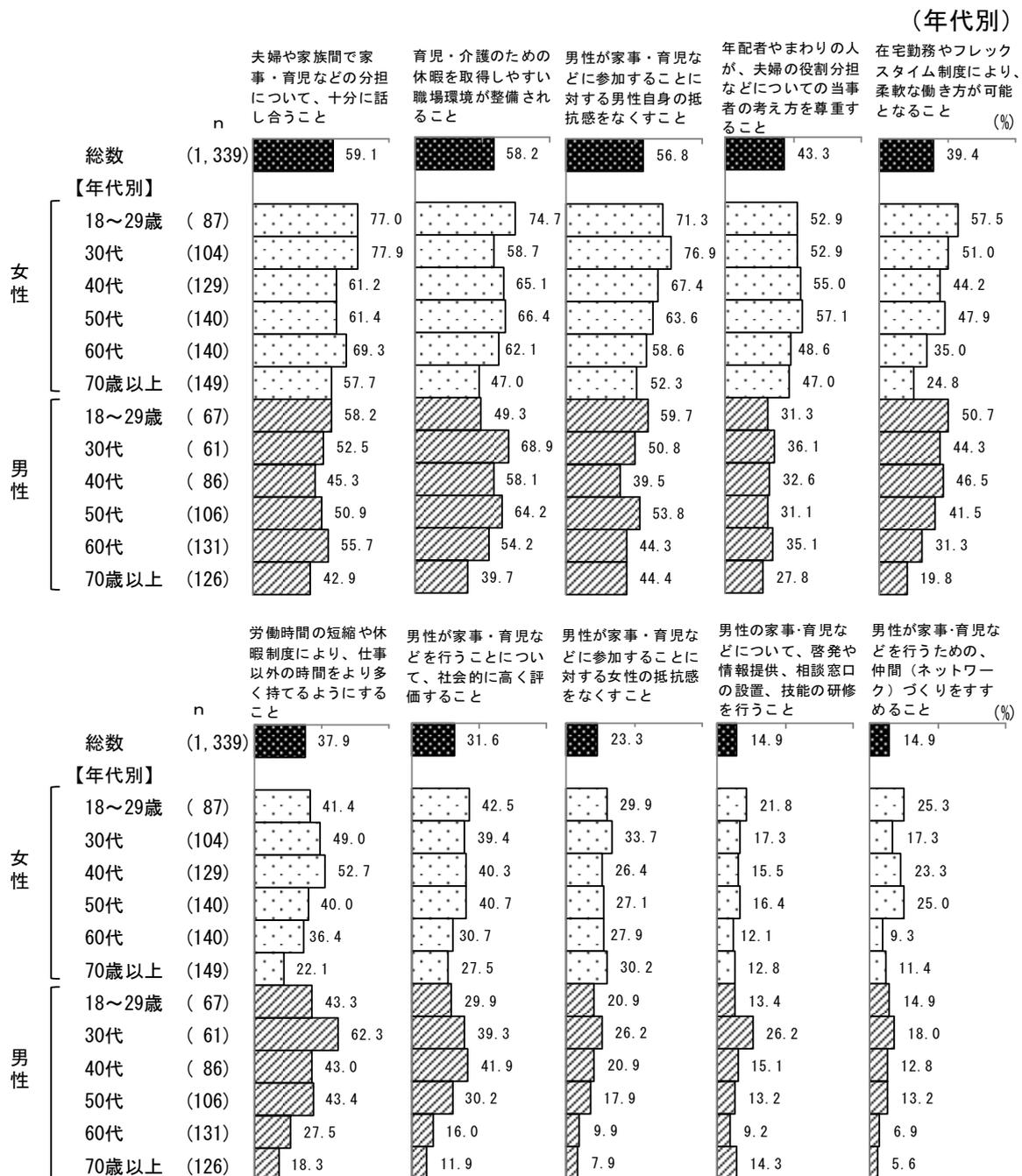


図6-3 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧
(性・地域別、性・職業別、性・共働きの有無別)

(単位：%)

		サンプル数	夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと	育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整うこと	男性が家事・育児などに参加する男性自身への抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割などについて当事者の考え方を尊重すること	在宅勤務やフレックスタイム制度により、柔軟な働き方が可能となること	労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持つことができること	男性が家事・育児などを行うことについて、社会的に高く評価すること	男性が家事・育児などに参加する女性への抵抗感をなくすこと	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	その他	特に必要なことはない	
全体		1,339	59.1	58.2	56.8	43.3	39.4	37.9	31.6	23.3	14.9	14.9	2.2	4.0	
性×地域別	女性	能登北部	41	58.5	61.0	70.7	48.8	43.9	29.3	17.1	36.6	12.2	14.6	4.9	4.9
		能登中部	90	60.0	53.3	52.2	43.3	32.2	28.9	34.4	24.4	13.3	17.8	1.1	3.3
		石川中央	477	66.0	64.2	66.2	53.2	43.8	42.3	35.8	28.9	17.0	19.5	2.3	1.7
		南加賀	142	72.5	57.7	61.3	54.2	40.8	38.7	43.7	29.6	12.7	14.1	1.4	2.8
	男性	能登北部	37	51.4	51.4	45.9	29.7	37.8	10.8	27.0	13.5	10.8	13.5	2.7	10.8
		能登中部	55	49.1	52.7	50.9	40.0	30.9	30.9	21.8	16.4	16.4	7.3	0.0	3.6
		石川中央	367	51.2	55.9	49.3	31.1	40.1	40.6	26.4	16.3	14.4	9.8	2.5	6.8
		南加賀	119	47.9	50.4	42.0	31.9	27.7	32.8	23.5	13.4	13.4	14.3	1.7	5.0
性×職業別	女性	勤め人	429	65.7	61.5	68.8	52.9	45.2	43.1	38.7	28.9	14.2	18.9	2.1	1.9
		自営業・家族従業	58	67.2	56.9	56.9	51.7	39.7	36.2	29.3	34.5	13.8	22.4	5.2	3.4
		無職	243	66.7	62.1	57.6	51.0	36.2	32.5	33.7	26.3	17.7	15.2	1.6	2.9
	男性	勤め人	350	50.9	60.0	48.6	32.3	39.7	42.3	29.4	16.6	16.0	12.0	1.7	5.1
		自営業・家族従業	77	44.2	33.8	42.9	27.3	35.1	22.1	16.9	15.6	9.1	5.2	1.3	10.4
		無職	128	51.6	56.3	50.8	36.7	32.8	32.8	21.9	15.6	14.8	11.7	3.1	6.3
性×共働きの有無別	女性	共働きである	300	62.7	63.3	67.3	53.3	43.7	46.0	39.0	29.0	15.3	19.0	2.3	2.7
		共働きでない	155	65.8	58.7	54.8	55.5	33.5	35.5	32.9	29.7	14.8	14.2	2.6	1.9
	男性	共働きである	242	51.7	56.6	45.0	31.8	40.1	38.0	28.1	14.5	11.2	9.1	2.5	3.7
		共働きでない	131	48.1	50.4	48.1	32.8	29.8	27.5	20.6	11.5	16.8	8.4	3.1	6.9

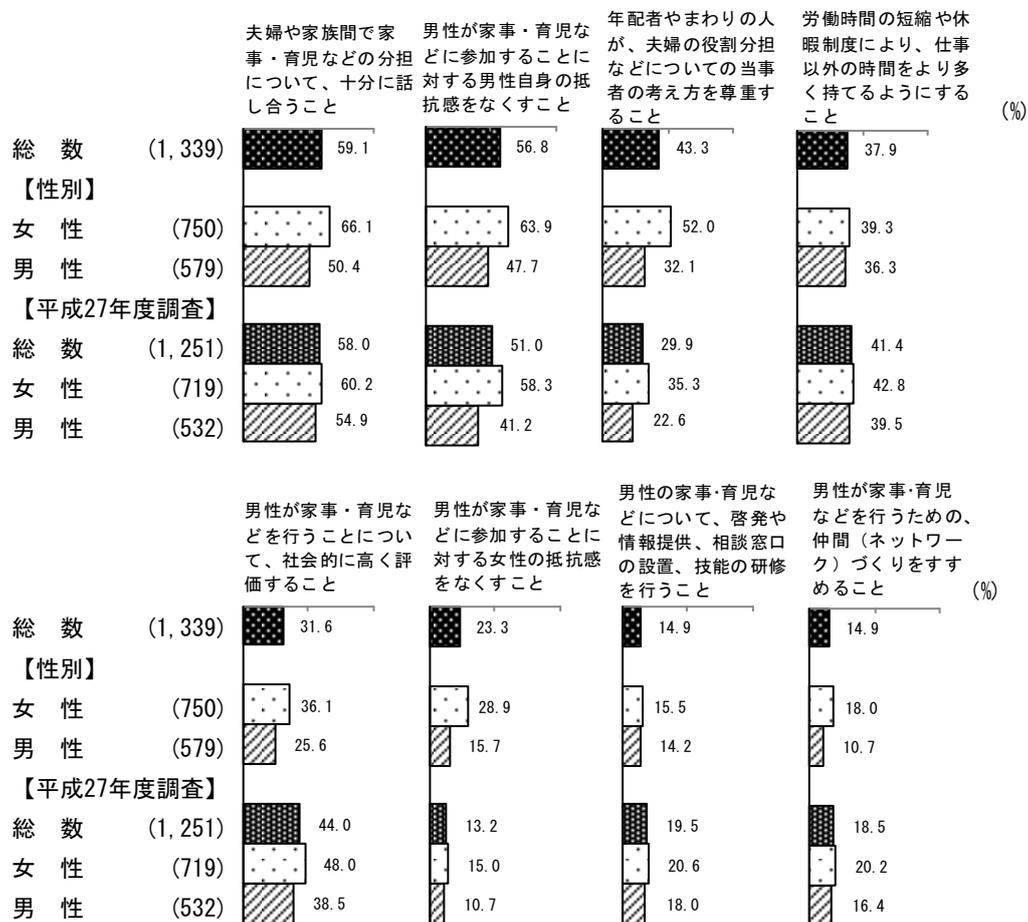
※グレーのセルは属性中トップの項目

【平成27年度調査との比較】

女性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の4項目で前回調査より増加している。

男性では、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の3項目で前回調査より増加している。

図6-4 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧
(平成27年度調査との比較)



※「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」と「在宅勤務やフレックスタイム制度により、柔軟な働き方が可能となること」は前回調査では項目になかったため、表記していない。

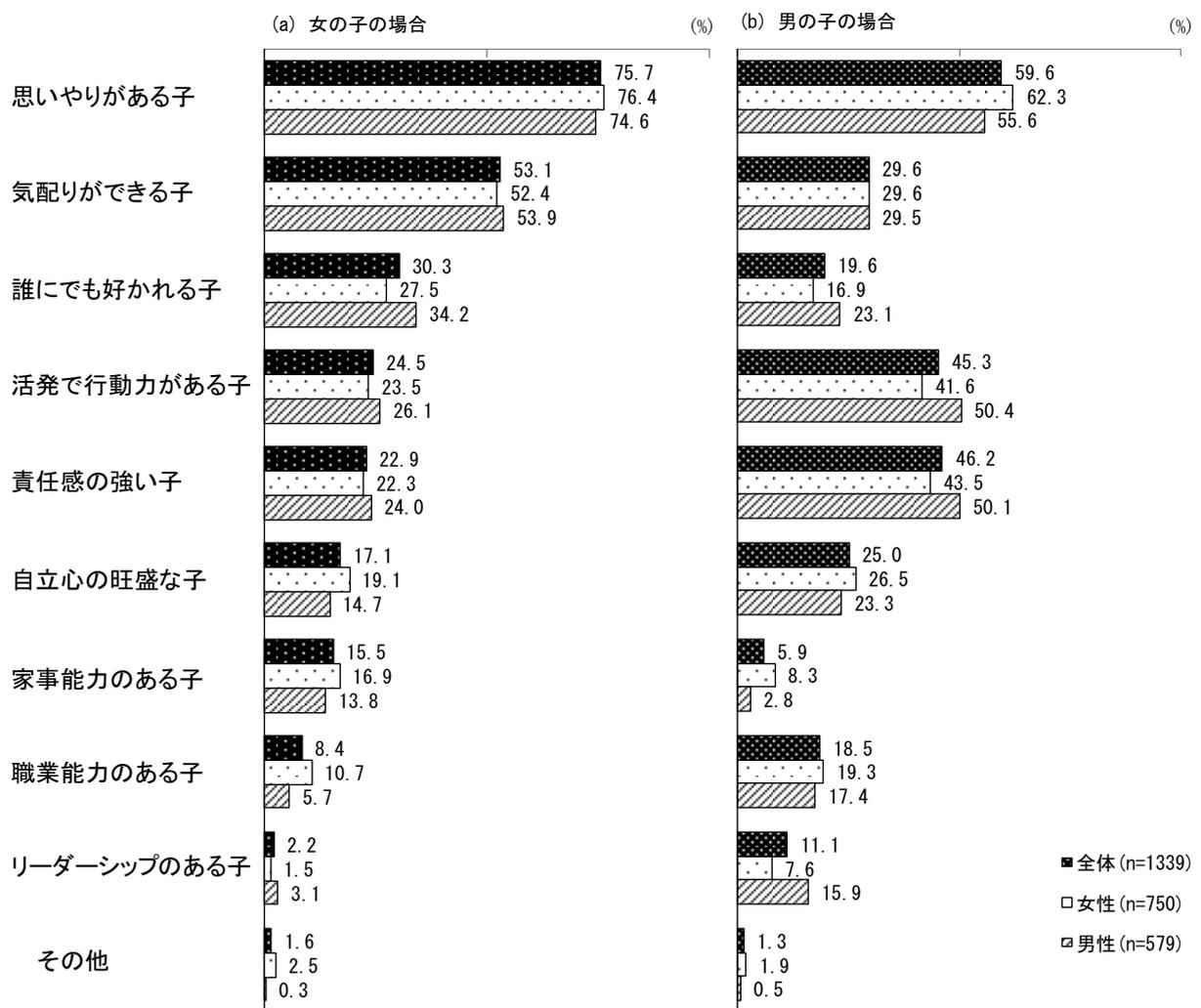
8 子どもの教育方針

問7 お子さんをどのように育てたい（育ててほしかった）と思いますか。お子さんのいない方もいたと仮定して、それぞれ○を3つまで選んでください。

“(a) 女の子の場合” は、男女ともに「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えている。次いで「気配りができる子」が5割以上となっており、続いて「誰にでも好かれる子」となっている。

“(b) 男の子の場合” は、男女とも“(a) 女の子の場合”と同様に「思いやりがある子」が最も多いが、続いて「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」が多くなっている。

図7-1 子どもの教育方針 項目別一覧 (性別)

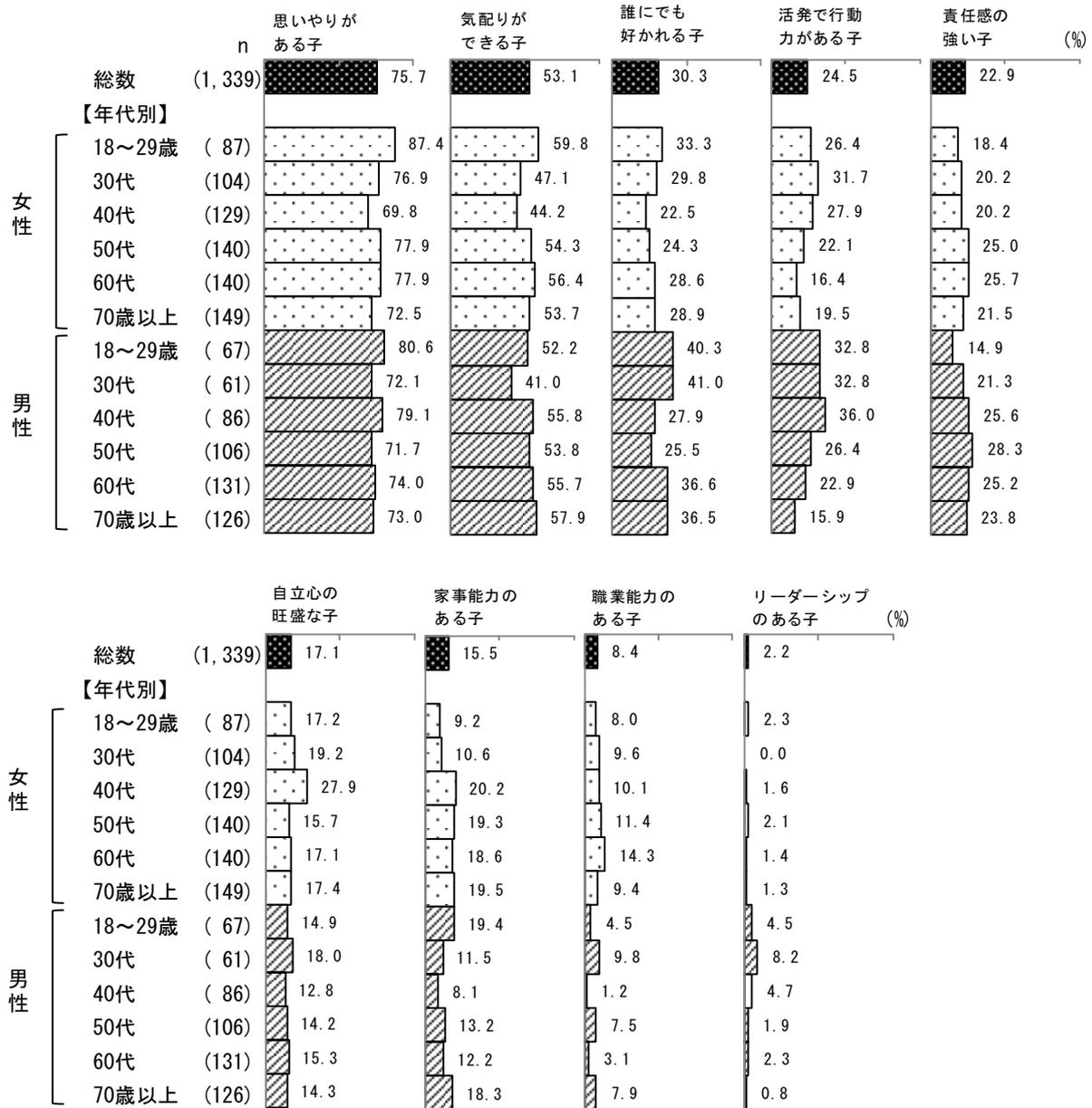


子どもの教育方針（a）女の子の場合

【年代別】

女性では、「思いやりがある子」は40代を除いた全ての年代で7割を超えている。
 男性では、「思いやりがある子」は全ての年代で7割を超えている。

図7-2 子どもの教育方針（a）女の子の場合（年代別）



子どもの教育方針（b）男の子の場合

【年代別】
 男女とも「思いやりがある子」は70歳以上を除いた年代で最も多くなっており、また、「責任感の強い子」は70歳以上の年代で最も多くなっている。

図7-3 子どもの教育方針（b）男の子の場合（年代別）

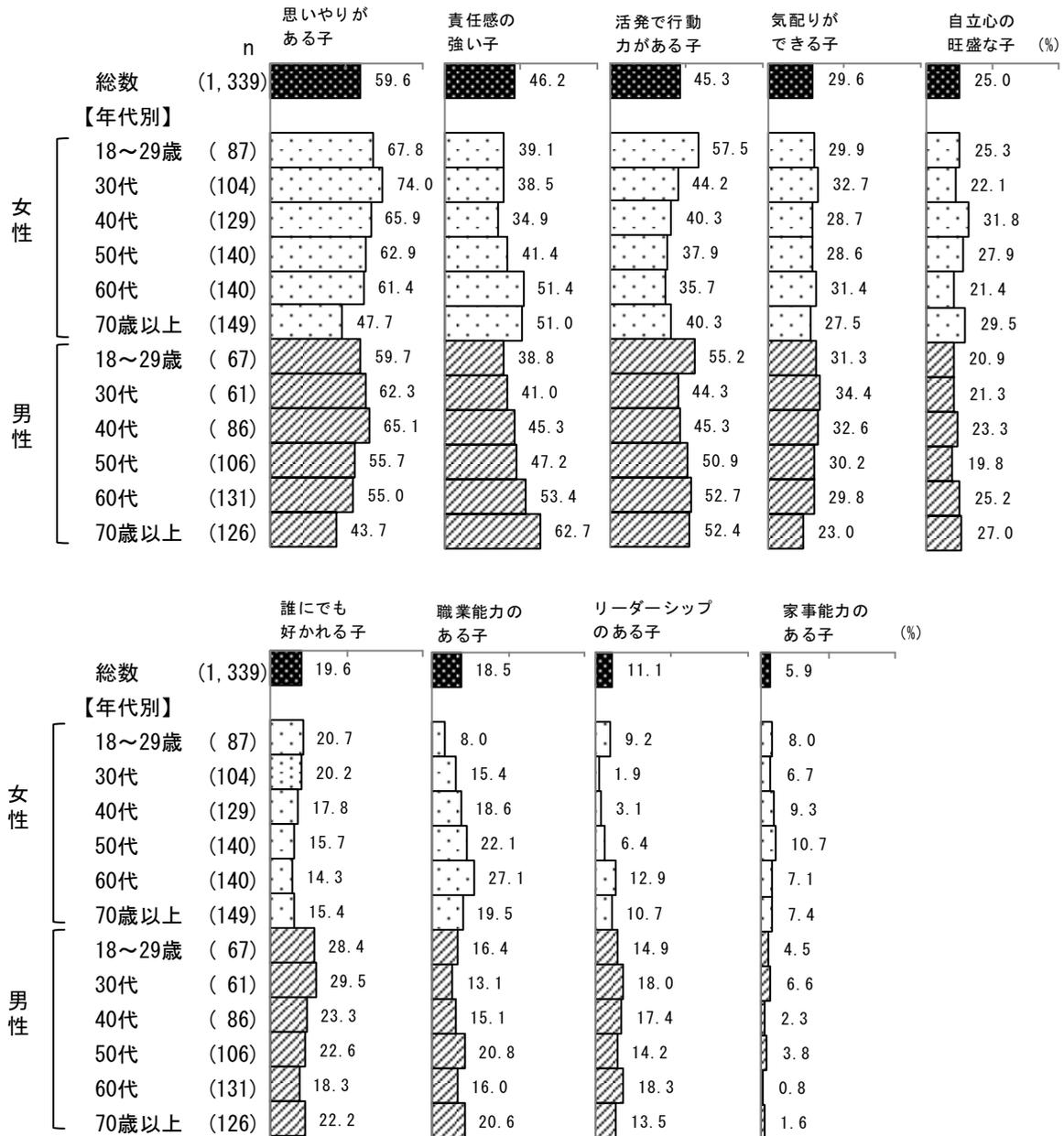


図 7-4 子どもの教育方針 (a) 女の子の場合 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	思いやりがある子	気配りができる子	誰にでも好かれる子	活発で行動力がある子	責任感の強い子	自立心の旺盛な子	家事能力のある子	職業能力のある子	リーダーシップのある子	その他	
全体		1,339	75.7	53.1	30.3	24.5	22.9	17.1	15.5	8.4	2.2	1.6	
性×地域別	女性	能登北部	41	75.6	61.0	26.8	14.6	29.3	22.0	12.2	12.2	0.0	2.4
		能登中部	90	75.6	55.6	34.4	17.8	22.2	23.3	16.7	12.2	2.2	2.2
		石川中央	477	77.1	50.7	27.9	24.5	21.8	18.4	17.6	10.7	1.3	2.7
		南加賀	142	74.6	53.5	21.8	26.1	21.8	17.6	16.2	9.2	2.1	2.1
	男性	能登北部	37	75.7	48.6	37.8	13.5	16.2	10.8	8.1	10.8	2.7	0.0
		能登中部	55	69.1	58.2	21.8	21.8	25.5	21.8	16.4	3.6	5.5	0.0
		石川中央	367	75.7	53.7	35.7	27.8	24.3	15.3	14.7	6.0	3.0	0.0
		南加賀	119	73.1	53.8	33.6	26.9	25.2	10.9	11.8	4.2	2.5	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

図 7-5 子どもの教育方針 (b) 男の子の場合 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	思いやりがある子	責任感の強い子	活発で行動力がある子	気配りができる子	自立心の旺盛な子	誰にでも好かれる子	職業能力のある子	リーダーシップのある子	家事能力のある子	その他	
全体		1,339	59.6	46.2	45.3	29.6	25.0	19.6	18.5	11.1	5.9	1.3	
性×地域別	女性	能登北部	41	51.2	36.6	46.3	31.7	31.7	22.0	19.5	2.4	7.3	0.0
		能登中部	90	61.1	42.2	35.6	26.7	27.8	16.7	23.3	13.3	10.0	2.2
		石川中央	477	62.7	46.1	42.1	28.9	26.4	17.0	19.1	6.5	8.8	2.1
		南加賀	142	64.8	37.3	42.3	33.1	24.6	15.5	17.6	9.2	5.6	1.4
	男性	能登北部	37	51.4	45.9	54.1	27.0	18.9	32.4	21.6	0.0	2.7	0.0
		能登中部	55	61.8	47.3	47.3	32.7	29.1	18.2	16.4	12.7	0.0	0.0
		石川中央	367	56.4	50.7	50.7	30.2	23.4	22.6	18.3	17.7	2.5	0.3
		南加賀	119	52.1	50.4	49.6	26.9	21.8	23.5	14.3	16.8	5.0	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

子どもの教育方針（平成27年度調査との比較）

“（a）女の子の場合”では、前回同様、「思いやりがある子」が最も多く、「気配りができる子」、「誰にでも好かれる子」の順となった。
 “（b）男の子の場合”では、は、前回調査は「責任感の強い子」が最も多かったが、今回調査は「思いやりがある子」が最も多くなった。

図7-6 子どもの教育方針（a）女の子の場合

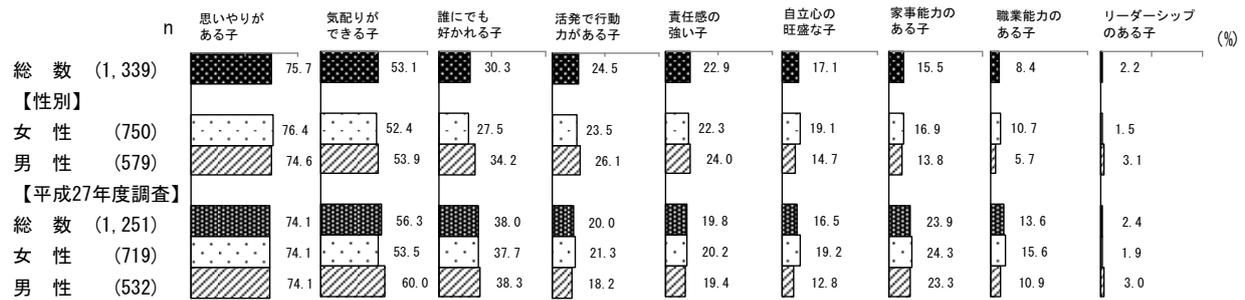
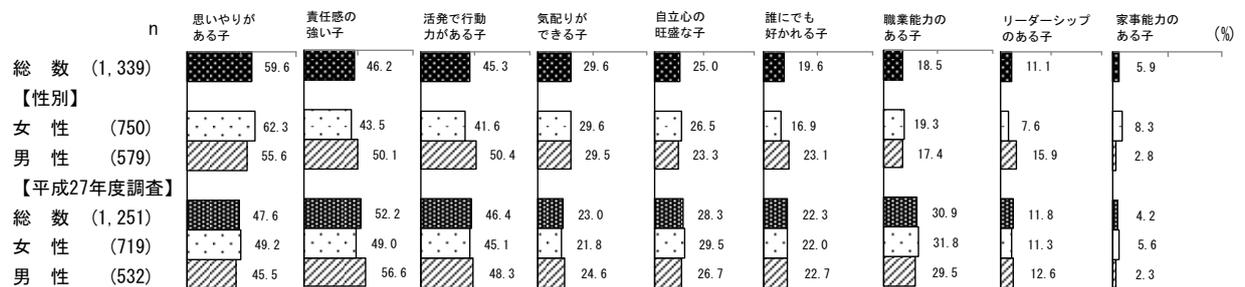


図7-7 子どもの教育方針（b）男の子の場合



9 親の介護における役割分担

問8 あなたは、もし親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つずつ○をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。[今年度新規調査項目]

(a) 自分の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（50.3%）が最も多くなっている。

また、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（女性 65.2%、男性 31.3%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性 19.5%、男性 42.3%）が男性で最も多い。

図 8-1 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧（性別）

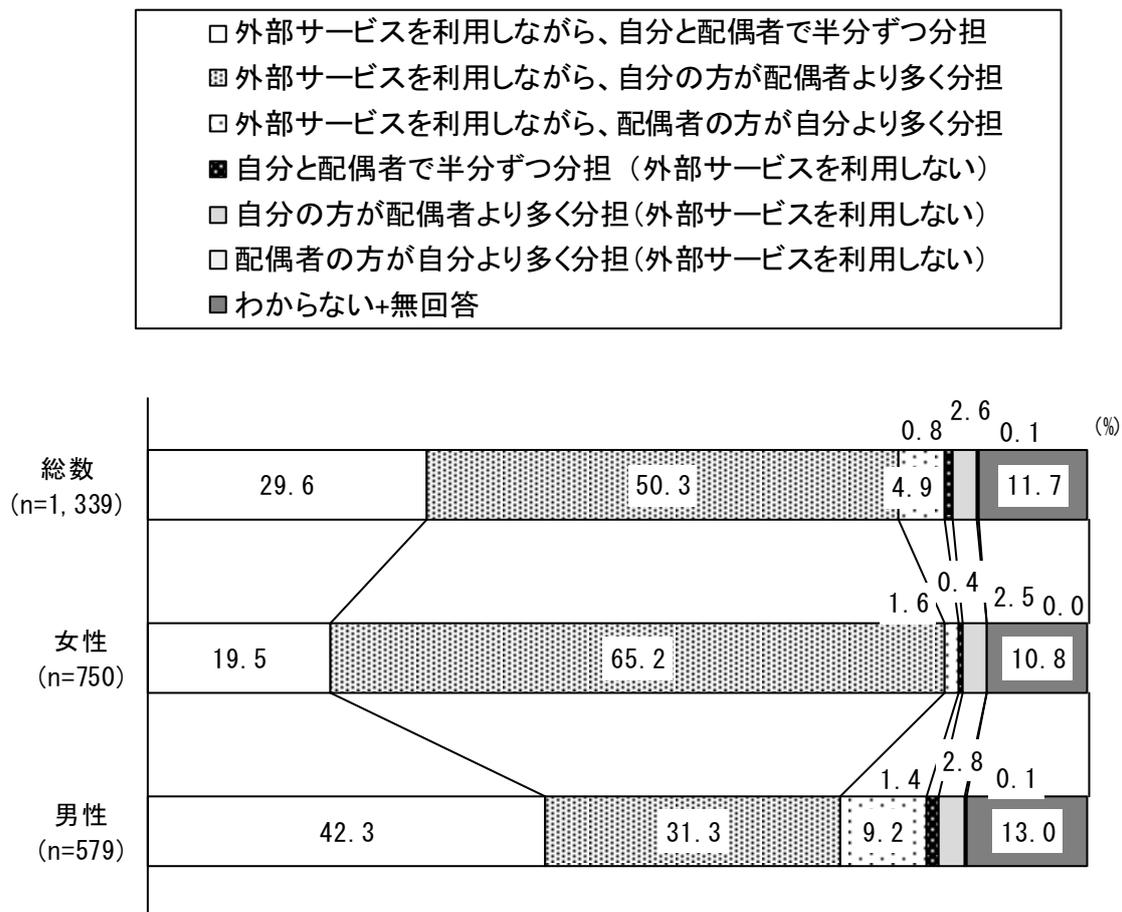


図 8-2 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧 (年代別)

【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は全ての年代で最も多くなっており、40代 (76.7%)、50代 (73.6%) では7割を超えている。

男性では、全ての年代で「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多い。

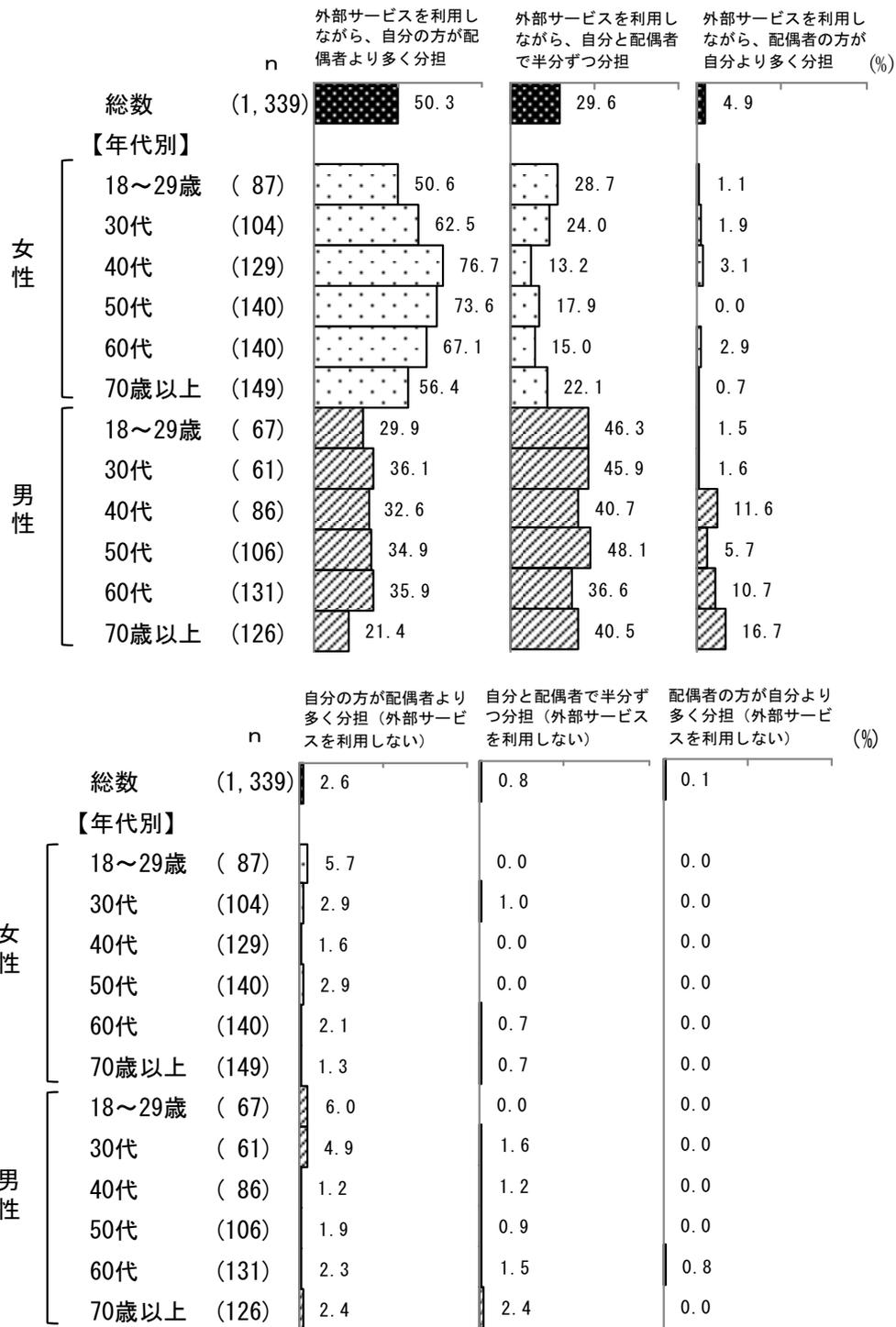


図 8-3 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧

(未既婚別、共働きの有無別)

【未既婚別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は未婚(54.5%)と有配偶者(68.4%)で若干の差があった。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は未婚(1.6%)と有配偶者(11.4%)で9.8ポイントの差があった。

【共働きの有無別】

女性では、大きな差はなかった。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は「共働きでない」(19.1%)が「共働きである」(5.8%)の3倍以上となった。

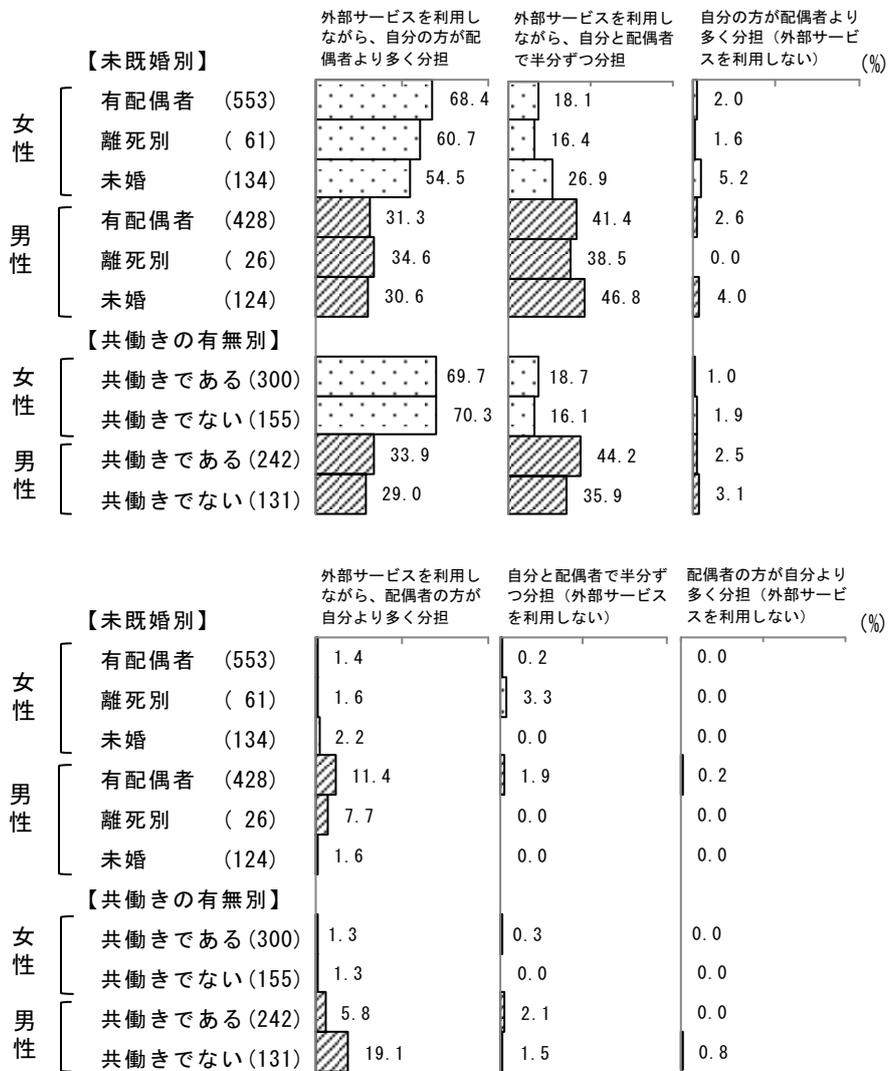


図8-4 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)	自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)	配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)	わからない	無回答	
全体		1,339	50.3	29.6	4.9	0.8	2.6	0.1	7.4	4.3	
性×地域別	女性	能登北部	41	56.1	26.8	0.0	0.0	9.8	0.0	2.4	4.9
		能登中部	90	62.2	21.1	2.2	1.1	0.0	0.0	7.8	5.6
		石川中央	477	67.7	17.8	1.5	0.0	2.5	0.0	5.5	5.0
		南加賀	142	61.3	21.8	2.1	1.4	2.1	0.0	7.0	4.2
	男性	能登北部	37	21.6	62.2	8.1	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7
		能登中部	55	34.5	40.0	12.7	1.8	1.8	0.0	3.6	5.5
		石川中央	367	33.5	39.5	9.5	1.4	2.7	0.3	10.6	2.5
		南加賀	119	25.2	46.2	6.7	0.8	3.4	0.0	11.8	5.9

※グレーのセルは属性中トップの項目

親の介護における役割分担

(b) 配偶者の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(42.0%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性47.1%、男性35.4%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性25.3%、男性38.5%)が男性で最も多い。

図8-5 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (性別)

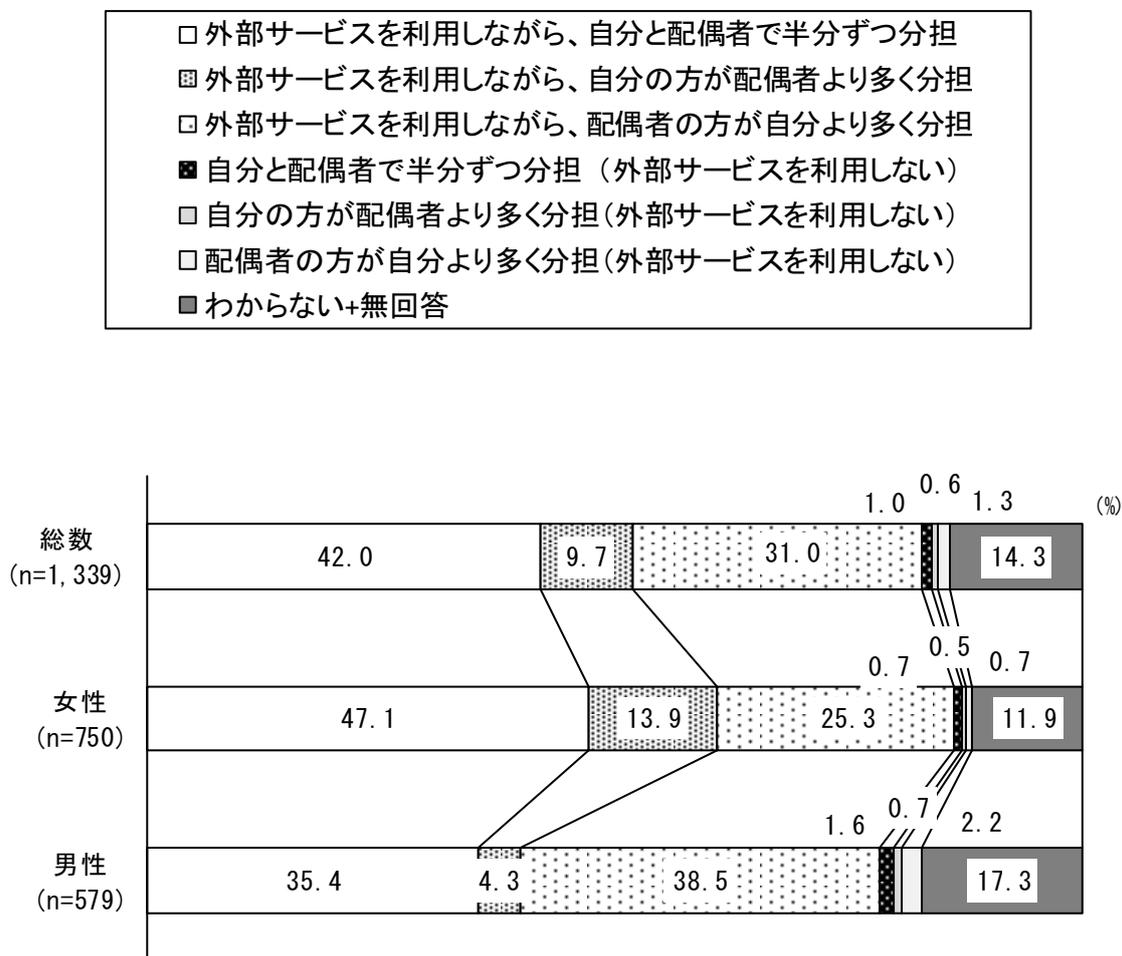


図 8-6 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (年代別)

【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は40代(36.4%)を除く、全ての年代でも最も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は60代(24.4%)、70歳以上(26.2%)を除く、全ての年代でも最も多くなっている。

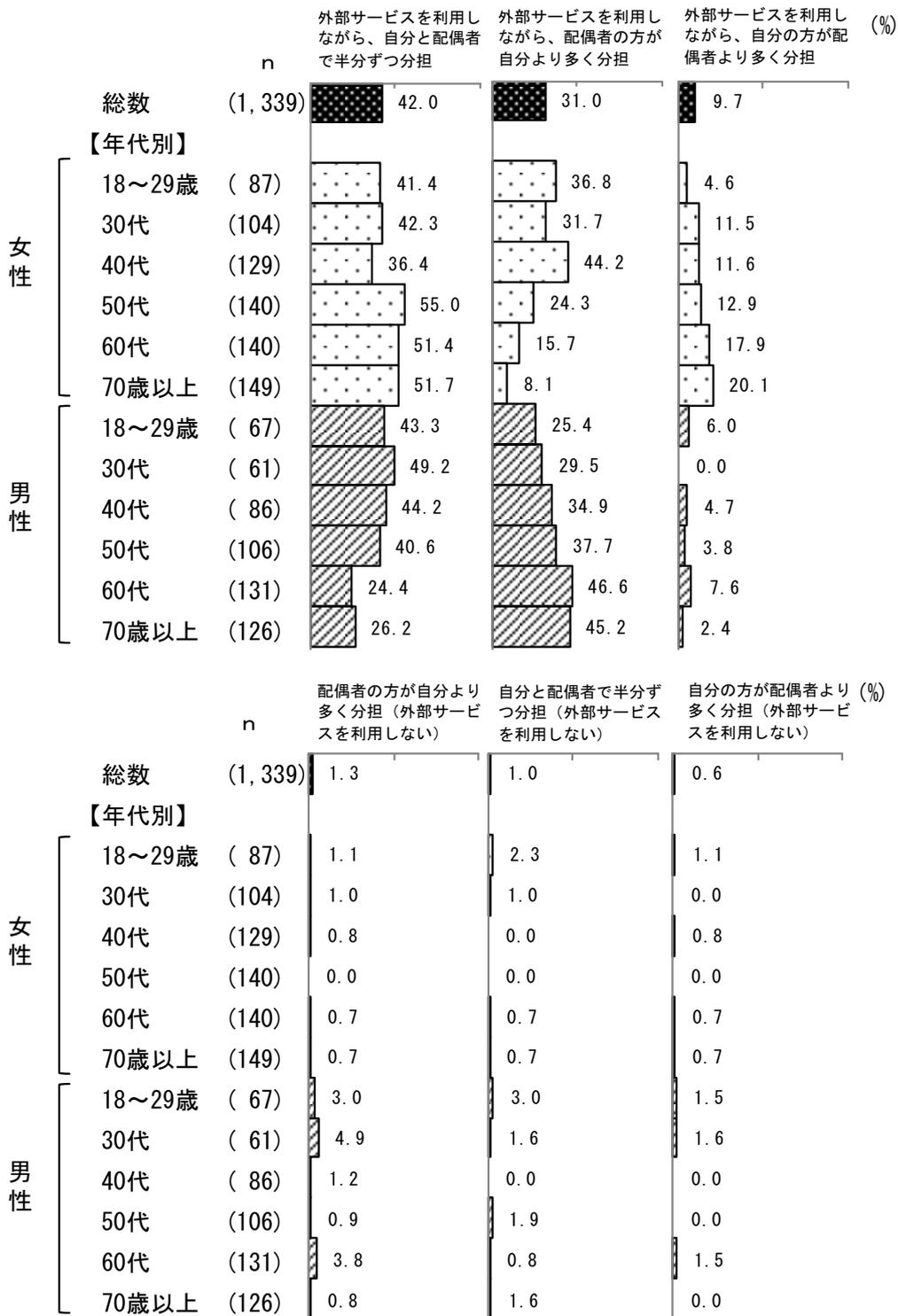


図 8-7 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧
(未既婚別、共働きの有無別)

【未既婚別】

女性では、未既婚を問わず「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多いが、未婚では「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(36.6%) も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は未婚(44.4%)、
「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は有配偶者(41.8%)、
離死別(42.3%)で最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、共働きの有無を問わず「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多い。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は共働きである(38.0%)で最も多い。「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は共働きでない(49.6%)で最も多い。

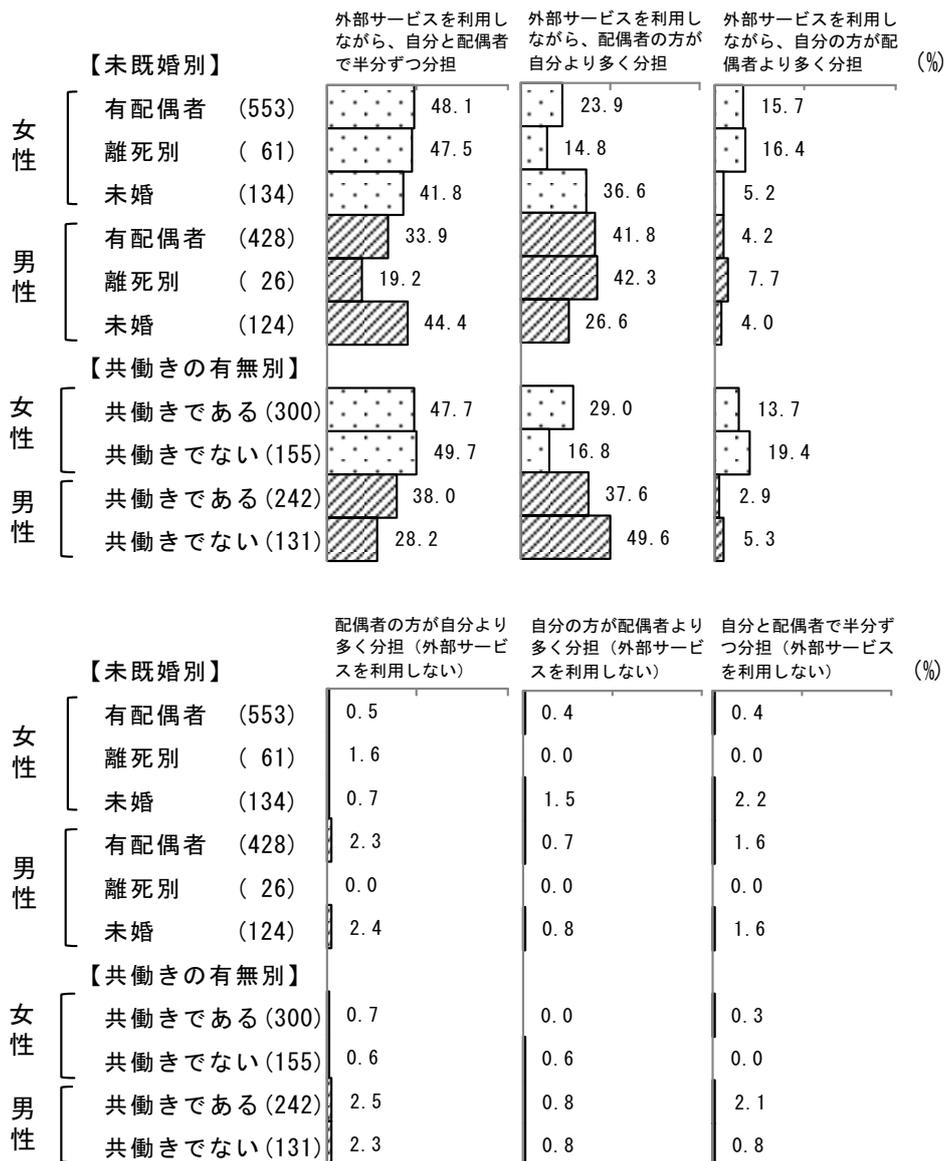


図8-8 親の介護における役割分担 (b)配偶者の親の介護 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)	自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)	配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)	わからない	無回答	
全体		1,339	42.0	31.0	9.7	1.0	0.6	1.3	8.8	5.5	
性×地域別	女性	能登北部	41	51.2	17.1	19.5	2.4	0.0	0.0	9.8	0.0
		能登中部	90	50.0	24.4	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6	8.9
		石川中央	477	45.9	26.6	13.2	0.4	0.6	1.0	7.1	5.0
		南加賀	142	47.9	23.9	16.2	1.4	0.7	0.0	5.6	4.2
	男性	能登北部	37	56.8	27.0	2.7	5.4	2.7	2.7	0.0	2.7
		能登中部	55	25.5	36.4	10.9	0.0	0.0	0.0	10.9	16.4
		石川中央	367	33.2	42.8	3.0	1.9	0.5	2.7	12.0	3.8
		南加賀	119	40.3	29.4	5.9	0.0	0.8	1.7	13.4	8.4

※グレーのセルは属性中トップの項目

10 介護するときに困ること

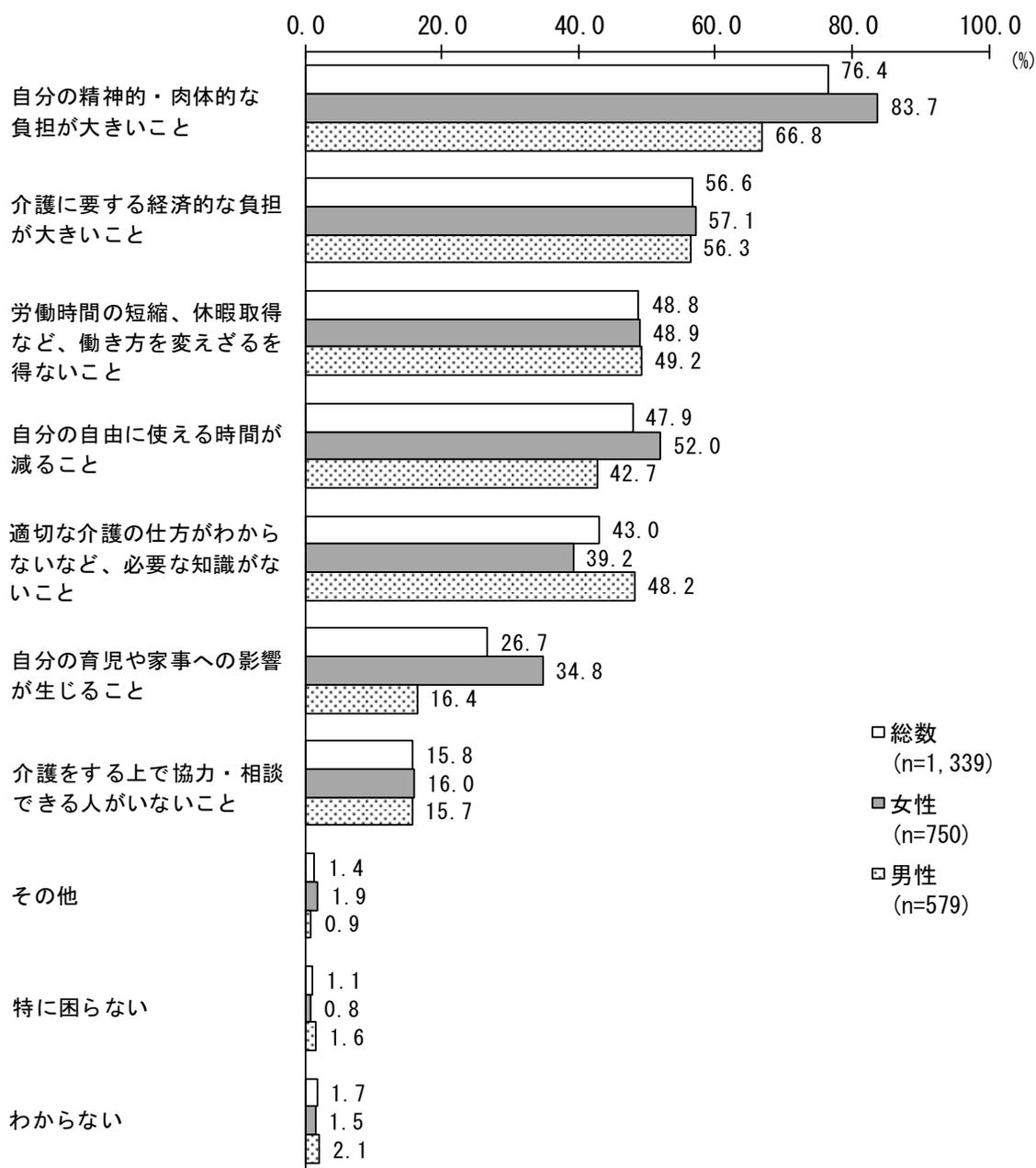
問9 もし介護をする役割を担う場合、どのようなことに困ると思いますか。(〇はいくつでも)
[今年度新規調査項目]

全体では「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(76.4%)が最も多い。また、男女とも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(女性83.7%、男性66.8%)が最も多く、次いで「介護に要する経済的な負担が大きいこと」(女性57.1%、男性56.3%)が続く。

男女の差が大きいものとしては「自分の育児や家事への影響が生じること」(18.4ポイント差)、「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(16.9ポイント差)で女性のポイントが高くなっている。

また、「適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと」(9.0ポイント差)については、男性のポイントが女性を上回っている。

図9-1 介護するときに困ること 項目別一覧(性別)



介護するときに困ること

【年代別】

女性では、いずれの年代でも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

男性では、40代（60.5%）を除いた、いずれの年代でも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性・男性ともに、未既婚等を問わず「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性・男性ともに、共働きの有無を問わず「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

図9-2 介護するときに困ること 項目別一覧（年代別、未既婚別、共働きの有無別）

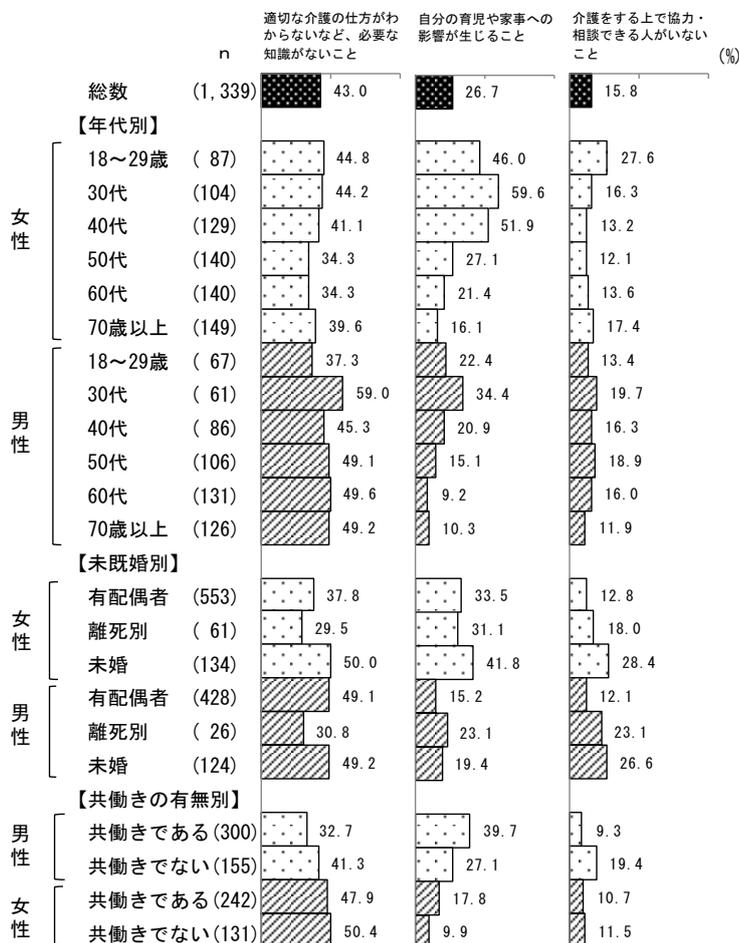
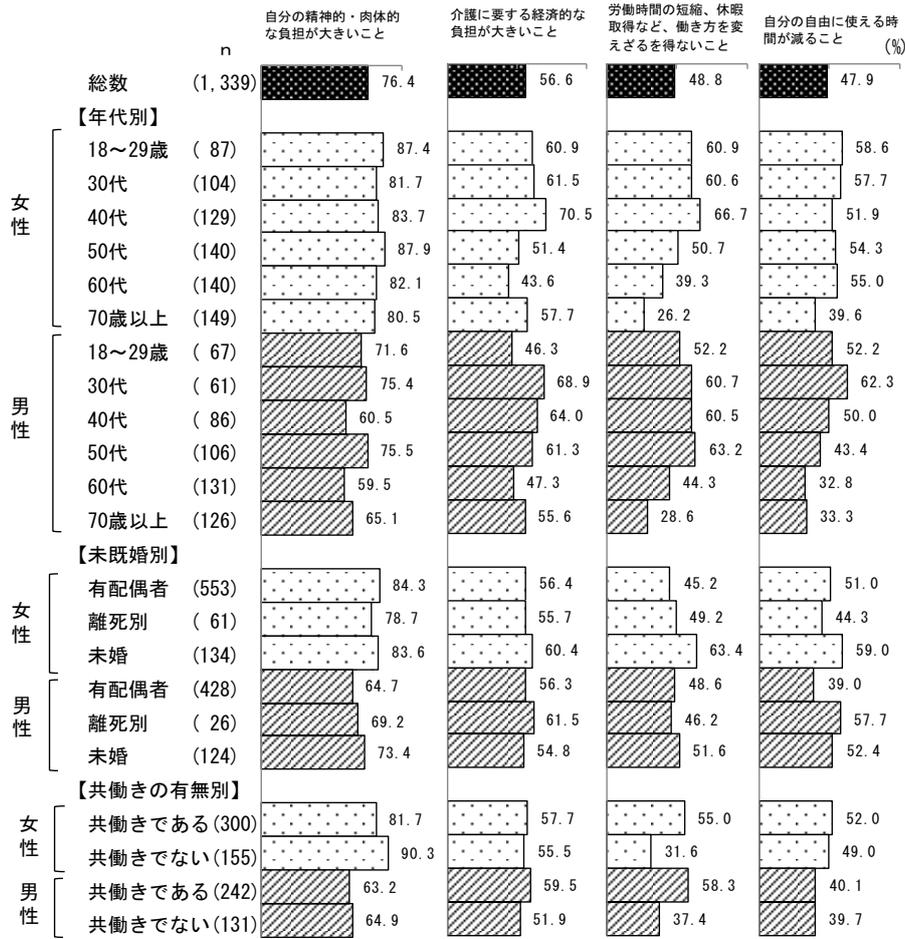


図9-3 介護するときに困ること 項目別一覧（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと	介護に要する経済的な負担が大きいこと	労働時間の短縮、休暇取得など、働き方をえざるを得ないこと	自分の自由に使える時間が減ること	適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと	自分の育児や家事への影響が生じること	介護をする上で協力・相談できる人がいないこと	その他	特に困らない	わからない	
全体		1,339	76.4	56.6	48.8	47.9	43.0	26.7	15.8	1.4	1.1	1.7	
性×地域別	女性	能登北部	41	85.4	53.7	51.2	43.9	36.6	17.1	12.2	2.4	0.0	0.0
		能登中部	90	71.1	55.6	41.1	45.6	36.7	26.7	14.4	1.1	2.2	1.1
		石川中央	477	86.2	56.8	49.5	55.3	41.9	37.5	18.7	2.1	0.6	0.8
		南加賀	142	83.1	59.9	51.4	47.2	32.4	35.9	9.2	1.4	0.7	4.2
	男性	能登北部	37	62.2	51.4	45.9	37.8	29.7	13.5	5.4	2.7	0.0	2.7
		能登中部	55	67.3	52.7	49.1	32.7	45.5	14.5	14.5	0.0	1.8	0.0
		石川中央	367	66.2	56.4	49.3	44.4	49.3	16.3	16.1	0.8	1.1	2.5
		南加賀	119	69.7	58.8	49.6	42.9	51.3	17.6	17.6	0.8	3.4	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目